明治二十一年七月十五日發兌

遞信省認可

以良都女

第十三號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十三號目次

社説。　女子を實驗の犧牲とする勿れ。

家政。　ひきつけ療法。＝醫學士竹中成憲氏。百日咳療法。小兒育て方習慣の話。

小説。　空行く月(第五回)。

學藝。　甘露を降らす蟲(密畫入)

文藝美術。　歌數首＝孤芳女史＝東宮鐵麿＝美妙。新作唱歌＝美妙。音樂稽古の仕方＝上眞行氏。

流行。　單衣、緋珍の帶＝開花牡丹の簪＝金足水晶玉の簪＝銀蒔繪の櫛＝すみれの香水＝香水瓶を下げける事＝朧銀の時計側＝玉盡しの時計鎖＝孔雀扇＝藤紫繻子蒔黄錦紙屑籠。米國貴婦人間の日本風の流行。

化粧。　曹達で髮毛を洗ふ善惡＝髮毛を保存する法。

講義。　用器畫稽古の新法(畫入)。

雜纂。　文學大家平生會話の巧拙。人工の片輪(密畫入)。

批評。　明治唱歌。藪の鶯。本鄕W、S生に。

叢話。　姑と嫁。

餘興。　前號謎の解○新作謎……(懸賞)

月報。　日本演藝矯風會發會批評。

特別寄書。　和洋兩服の利害可否を論し全國の淑女紳士に謀る醫學士竹中成憲氏。

社告

いらつめ發兌日是迄第二土曜日の處自今毎月十五日ゟ改む

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第拾三號附錄　明治廿一年七月十五日發兌　發行人兼印刷人　武田安之助　編輯人　橋葉彦三郎

和

中等以上ノ衣服	男子和服	男子洋服	女子和服	女子洋服	舞踏服
人體天然ノ形ヲ變ス……	不	不	不	甚	甚

候ハヽ朱書之處御抹殺御意見其側に御記入被成下度候尚和洋服改良之御意見御座候ハヽ此答紙に添九月十五日迄にいらつめ成美社へ御投寄被成下度願上候也

明治二十一年七月十五日

醫學士　竹中成憲

淑女紳士各位

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十三號

いらつめ

女生徒を以て實驗の犧牲となすと勿れ學校の生徒に對する責任の重くして且大なるは多言を待たずして明なり。　人に天性動かす可からさるの差異あるも固よりなれども其動かし得可き限りは俊才をして奸惡に陷らしむるの力も學校にあり庸才をして俊秀に進ましむるの力も亦學校に在り。　人間の運命は先づ第一に學校の良否に由て善惡の差を生ずるものなり。　故に學校は誠實に生徒の利益に注意し之をして後來尤も幸福なる生活を爲さしめ最も世に適するの人たらしむるの素地を爲さゞる可からず。　是即ち學校の生徒に對して有するの義務にして學校の常に其注意を傾く可き唯一の目的なりとす。　女學校の增加は近來著き事實にして今日に在ては其數容易く算へ盡す可きに非ず。　學校の多きに從て其組織其程課も亦千差萬別なり中には全く西洋人を以て教授の任に當らしめ生徒をして專ら西洋の課程を學ばしめ黃面黑髮の西洋婦人を日本に造出さんとするものあるやに聞けり。　日本の婦人をして悉く西洋風に豹變せしむるの果して日本に利益ありや否やは余輩茲に之を論ずるを欲せずと雖とも苟も學校たるものは社會上の實驗を爲すが爲濫りに世情に適せず社會に生存し能はさる片輪女を造出して學校の本務を空しうし生徒を以て空想の犧牲に供す可からさるは明白の事理とす。　假令其目的は一國を利するに在るも之か爲其教育の責ある生徒を以て犧牲に供するか如きは政略家の爲す可き事にして生徒を教育するを以て目的としたる學校の爲す可きとに非さるなり。

女子をして全く西洋風の教育を受けしめんか。　其結果は決して推測り難しとせさるなり。　他なし日本の事情に通せず日本の社會に適せさる片輪女を生するのみ。　日本の社會をして悉く西洋風に化せしむれば則ち可なり。　然れとも今日に在ては西洋風の輸入も社會の事實の一小部分に過ぎず。　衣食住及び社會組織の大部分は依然として日本風を存せり。　此社會の元素となり此社會を出でゝ其重要なる部分とならんとするの婦人にして全く西洋風の教育を受け日本風の教育を拋擲したるものならしめは此の如き婦人か社會に適應ず幸福なる生活を享くると能はず恰も外國に寄留したるか如く生活の範圍を縮むるは免かる可からさるの數とす。　最も覩易き

一例を以て之を證せんに此の如き學校にして獨り西洋服の裁縫を敎へ日本服の裁縫を授けざる時ハ此の如き婦人ハ如何にして和服の裁縫に從事せんとするや。　若し此の如き瑣末の業務ハ之を仕立屋に委す可しと言ハゞ始めより全く裁縫科なきの愈れるに如かさるなり。　其他百般の業務一として皆然らさるなし。　蓋し社會の進歩ハ甚た遲緩なるものなり。　學校の敎育ハ數年にして之を終ふることを得可し。　數年にして全く西洋風に變化したる婦人が十數年を經るも猶大半舊習を存するの社會に接せんとす。　其彼是相容れざるハ固より怪むに足らさるなり。　故に今日に在て直に女子の敎育を全く西洋人に委任して全く西洋の課程を敎授せしむるハ即ち社會に適せざるの婦人を造成するものなり學校の本務に反き生徒の利益を顧みず社會上の實驗を爲すか爲めに生徒を以て犧牲に供するものなりと云ふも未た遽かに失當の言と謂ふを得さるに似たり。　請ふ試みに男子敎育の變遷を以て之を證せん。

維新以來百般の事皆舊を捨て新に就かんとするの時勢に連れ漢學和學の如きハ一時全く無用の長物として之を抛棄し專ら西洋學の一方にのみ狂奔したるとあり。　當時秩序紀律の立ちたる學校に於てハ往々和漢學を以て別課目とし殆んど有名無實のものとなりたるより堂々たる學校の卒業生にして往々片言なるでハ一封の書簡すら認むると能ハざるものあるに至れり。　然るに世間の事業ハ官と民とを問ハず一として文字を以て思想を吐露するの必要なきものなく其極遂に和漢學の今日に在てハ猶必要欠く可からさるものたるを悟り之を以て一の重要なる學科となすに至れり。　是畢竟文字の末に過ぎざれとも其他現時に在ても各種の專門學其大抵西洋の制度文物を敎授するに止まり却て日本自國に關する課目の敎授を欠くが爲堂々たる學者にして猶往々外人の嘲笑を招くとあるを以て專門の學校に於てハ漸く是等の科目を學課中に加へんとするの勢あり。　男子敎育の變遷を見るも此の如し。

夫れ男子の從事する所の業務ハ概ね社會の表面に現ハるゝ事物にして最も西洋風の變遷を受けたるものなり。　然れども猶西洋學の一方にてハ社會に出でゝ有用の人たる能ハさること此の如し。　女子の業務に至てハ概ね内部の事物にして最も西洋風の影響を感せさるものなり。　然るに男子に關して良果を奏せざりし經驗を以て却て更に之を女子に用ゐんとす。　余儕決して其可なるを見る能はさるなり。

以上陳ぶるか如く全く西洋の學科のみを授けて其他を顧みさるの學校は余儕の最も賛成せざる所なりと雖も若し其學校にして一般日常必要の科目を授け更に一歩を進めて高尙なる西洋風の課程を授くるものならば余儕は固より之に對して異議を有するものに非ず。　又人あり學校に入ると入らさるとは生徒の隨意なるか故に若し學校の課程日本の社會に適せずと信せば只入校せざるの一事あるのみといはゞ余儕復何をか論せん。

家政

育兒法

ひきつけ療法

醫學士　竹中成憲口述

前號で小供の癇の原因を詳しく述べましたが只今から急癇則ちヒキツケの療法を述べましやう。　癇を治すには別に定りたる藥はありません、　體を壯健にするのが何よりで畢竟養生が何よりの藥です。

第一　常に新鮮い空氣を呼吸させるやうに心掛て不潔な空氣を呼吸させてはいけません。　よい空氣なら冷くてもよろしうムいます。

第二　每日冷水で身體を洗ふがよろしいです。　即ち「いらつめ」十二號の冷水浴を實施さるがよいです。

第三　常に通事に氣をつけて、　每日なければ藥を醫者に御求めなさい手療治はいけません。

右は平生の心掛ですが若しヒキツケましたときは次の手當をなさいまし。

第一　頭と面を冷水で洗ひ足を暖める。

第二　新鮮な空氣を呼吸させるが肝心です。

第三　口中の粘痰を除去る。

第四　水蛭を二三條ボンノクボ（項）につける。

第五　灌腸するもよいです（仕方は一合の水に酢を酒杯に八分目の割合にて水に酢を加えたるものにて灌腸すべし）

第六　腓腸芥子泥（フクラッパギにカラシを塗る事）も至極よいです。

第七　蛔虫は出さなくてはいけませんが手療治では飛ぶ害を起しますから醫者に依賴なさるがよろしうムいます。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

百日咳の話

百日咳も小供から小供に傳染る病にて至極恐るべき病です。

毎度竹中醫學士が「いらつめ」の紙上で述べられた通ジフテリヤ、麻疹、コレラ、肺病、百日咳などは空氣が媒酌となりて傳染るのですから如何なる處にあるとも決して油斷はなりません。　畏くも御身九重の中に在らせらるゝ明宮殿下にも此病に罹らせ給ひきと承りぬ。　百日咳の初めは一寸風邪の樣で咳が出ます。尤も感冒と違ひますのは少し日が經ちますと咳の度に吐瀉氣があります。　もちッとわるくなりますと息を深く長く吸ひ込みそれから顏が青くなる迄咳つめ體も日増に衰へ咳は日増に強くなり、側に見る目もいたはしい隨分容易ならぬ病ですが兎角田舍の漢方醫者にかゝりてよく死にますから素人は不治ぬ病と思ふ人もありますが良い醫者にかゝり養生を怠らねば大概は治るもので心配するには及びません。　明宮殿下にも兎角御病氣すぐれさせ給はざりしが醫學博士池田謙齋先生が漢方大醫淺田宗伯先生に代りて侍醫となられてより藥效忽ちに顯はれ目下御全快遊ばされたる由。

百日咳は不治病ではありませんがそれでも淺田翁の如き老醫先生や池田博士の樣な良醫に罹らなくてはいけません。田舍の漢方醫では大概治りません。

借て池田博士は如何なる方劑を殿下にまゐらせしやは知るによしなけれども素人の心得置くべき療法は一あります、其外は總べて醫者の差圖に從はなければなりません。　一の療法とは消毒法にて火鉢の灰の中に硫黄を填めて徐々に燃すとです。　急に火の中に投入れていけません。

百日咳に罹れる小供の食事は餘程六かしき者にて汁や乳などの如き水の多い物は總ていけません。　何せよろしくないと云ふに百日咳は病名の如く咳をはげしく爲ますから御腹の内にトテモ納まりませんで戻してしまいますので體の養にならず反て病苦を增します。　だから水氣の多いものは用ゐずと軟な米飯に牛肉か鳥肉の類がよいのです。　此外なは要用な御注意がありますがそれは醫者から直接に聞くのがよいです。　尤も當今百日咳の事を竹中醫學士が研究中なれば俗醫の知らぬことにて諸君の御存になりてよいことがありましたら同先生に願て本誌に掲載ましやう。

習慣の話

引續きまして小供の育て方のお話で厶います。　昔から人は無くて七癖有て四十八癖と申傳へますが實に其通りて癖の

ない人間は厶いません一口に申せば人間は癖の塊と申てもよろしい位です。　西洋の學者が申しましたのにどんな意見を持つた人でもどんな職業の人でも人間の所爲を指圖するものは癖だと申しました。　さて癖は人間には是非あるものまた大した勢力のあるもので一度泌込んだ癖は拔けぬものです。だから親達は良い癖を小供衆に付ける樣に心掛けなければなりません。

抑〻癖即ち習慣は同じ所爲を度々致しますと出來るものですそして大人なればこれはあしき、あれはよきと判斷をして良き習慣を得るやうの工夫は出來ますが子供衆はまだ判斷の力が厶いませんから眼に見耳に聴き手に觸れるものは何でも眞似をいたしまして面白ければ幾度も繰りかへし遂に習慣となります。　さりながら面白きものは必しもよいことではありませんからそこで親達がその判斷を助けなければなりません。　子供は何を見ても何を聴きても眞似をするのですから親達はそのとき之を見て良き事か惡き事かを判斷しよきことあれば全しことを度々見せたり聴かせたりしてよき習慣を付けなければなりません。　あしきことにても一度位では直忘れるものですからあしきことと心付かれなば以後は見せたり聴かせたりせぬ樣にせねばなりません。　これは少々下司な例では厶いますがお耳近いお話しですから申します。　大工の日雇取の悴は遊ぶときにも木遣節の口眞似をして爺を學び裏店の女兒は質屋の眞似をして山神の下稽古をいたします。　親の眞似をするのですから親達も淺猿いことは思はひながらも冷汗を流して詠めてをります。　これは是非もありませんがお歴々の坊チヤマや嬢チヤマが日雇取の悴や裏店の女兒と遊びますと良いことは見習ひませんやはり木遣節や質屋遊をいたします。　これを打棄ておきますとツレ親達に似もつかぬ道樂息や御轉婆娘が出來ます。　チト古いお話ですが孟子といふ大學者の母は孟子にあしきことを見習はせまいとて三度まで移轉をしたと申すことです親達はヶ程まで注意しなければなりません。

理窟をならべるよりは實例の方が御合點が參りよいかと存じますから今一つ家庭教育の美談をお話いたしませう今は一廉の學者の一人といはるゝ某氏は幼年のとき他の子供が蛙兒をイヂつてゐるのを見て眞似してをりますとそれが面白くなりました。　處がその父親は一見識ある人と見えましていつも蛙兒を捕へて遊ばせましたが子供は掌にのせては詠め個は

せては手を拍ち餘念なく樂んでをりましたが三歳兒の魂百までの譬にもれず年を取りてからも生物が好となり遂には大學に入りて動物學を修め拔萃の聞が厶います。　これだから親達の注意一つで子達も堂とも育ちます。　明けても暮ても子供は母親の膝下を離れませんから母親が疎忽くて怠惰で不行儀なら子供もまたその通りに成人いたします世間ではよくもマアあんなに親に似たものダなど丶不審する人がありますが親に似ぬこそ不思議です。　だから謹むべきは親達の行状です。

母親「折角お天氣になッたと思つたらまた降りそうダ。　娘「ナゼエ母さん。　母「長刀に錆が出たからサ。　娘「ナニ母さん大丈夫ダワ學校の先生がチ雲が出ないと雨が降らないと仰やッたから。

小説

空行く月

美妙齋主人

第四回下

でも風も均しく仝じ風です。　竹は素より仝じ竹です。　けれど竹藪を吹く風も徒に喧噐を起すばかり。　それで笛を吹く風も鼓膜の御髯をはらひます。　一群の小兒が一途に叫出す「春の彌生」も多く老人の小言を呼出しますが、しかし一隊の伶人が打連れて囃す「葵の上」にも挿頭の纏頭を抛ッて猶足らぬとする人も有ります。　啻適當の機會を得たばかりで蠅も千里の果に至り、適當の機會を得なかッたばかりで源内も空しく骨を埋めました。　思へば前後の狀況といふもの程妙なものは有りません。　阿輝とても美麗とても、毛並の相違こそあるものゝ、均しく仝じ婦人です。　男子に對する情に於ては元より、殊なッても居ません。　それで猶介抱されて居る弓之助には一種奇妙な感じが有ッて、美麗が自分を親切に勦ッてくれるので有難いと思ふと仝時に日本に居る阿輝の事がいつしか胸に浮かんで來ます。

是も狀況が前後相互に相違して居るからで、可惜しい言分のやうですが、阿輝はあのとほり温順しいと云ふ方で、昔時なら女大學の教訓が直によく行されさうな性質であるばかり。今新奇の風に吹かれ、改進の潮に誘はれたのでやうやく文明婦人の御仲間入が出來さうに爲ッて來たのです。　それ故、内氣でおどけないといふ點に於ては阿輝の長處は迚も美麗の及ぶ處でありません。　その人に幼い時から接近して馴睦んで

居たのが弓之助です。馴れたばかり、可なり分別のつく年頃に始終顔を見合って居れば或は互に性質の缺點を見出だす事もありますが、肝心のその頃に弓之助と阿輝とは互に離れて居ましたから、今斯う遠國へ漂流して居る身には只その昔交情よくして而も互に氣に入りあって居た其時のみ思出される矢先、その日が良いと思ふ阿輝とは丸で反對の性質の美麗が親密に交はって呉れますので、救はれる忝さは感じますが、更に空中樓臺で之を阿輝に比較して端無いと思はなくも有りません。

美麗が居なくなった時ばかり、弓之助は縱横に阿輝の事を思起して、想像を組立てゝは打毀し、打毀しては組立て、早く全快して日本へ歸りたいと考へては居ますが、やがて美麗が部屋へ入って來て、なぐさめたり、戯れたり、假にも弓之助をして不愉快を感せさせまいと力めてくれる體を見れば、―あゝ凡夫といふ物は…かう爲れゝば流石にまた疎ましくもなくなるとつく〱觀念するばかりです。

その内に阿輝の事を十分に想像して而もそれを實地のやうに心の中に活動させて娛まうと思ふ劣情がまた萌始めて來るとさアまた美麗が我身の側に居るのが否になって來ます。挨拶も勢無く出るやうになり、應對の熱心さもどこやら氣が拔けたやうになる、それに美麗も心注いて部屋を立去る體に見せると、更に氣色が直って來ます。

小說で書くのは早いもので、弓之助の身體の疲憊もやがて其内に全快して自由にもう庭などを散步することも出來て來た、その頃の事でした、ある夜會から歸ったまゝ、いつでも直に弓之助の部屋へ尋ねて來る美麗が、どうしたのか其夜に限り、尋ねても來ません。

下女を呼んで尋ねれば美麗は部屋へ入って何か物思に沈んで居るといふ趣、弓之助も何やら訝かしくなって來ましたから、徐に我部屋を出て美麗の部屋の戸際へ行き、明けやうとしましたが錠が下りて居ます。

「いよ〱不思議だ」、獨語で獨語でないやうな鹽梅でつぶやいて、そと〱と戸を叩きました。

「美麗さん」。

けれど返辭がありません。

「もし」、すこし力を入れて叩いて、「もし美麗さん」。

聲はやうやく中へ通じたのか…去かし勢の無い返辭が一言、

「はイ」。

「弓之助です。中へ入っては惡うムいますか」。

「…えゝ」。

「御わるいければ入りますまい」。

「いゝえ、なに」。

やうやくにして戸が開きましたので弓之助は直に會釋して部屋の中へ入れば、美麗はふたゝび戸に錠と下しました。

「御用なかばでしたか」。

「と言ふのでもムいませんが……」言ッたばかり愁はしさうな笑顔をして居ます。

「どうか為さッたのですか。御身體でも御わるいのでは……」

「いゝえ身體もわるくはムいませんが」、溜息を合の手に入れて下を向き、「ちと氣にかゝることがムいますので」。

「それは又どういふ事で?」。

「なに、どういふ事といふ程の事でもムいませんけれど」。

此様に問詰められて來ると、兎角挨拶に躊躇するのが（直に挨拶しても決して悪くはありませんのに）一般の、まア、人情です。殊にその人は婦人です。或はわが氣にかけて居ることが大した困難の事でも無くて、心弱い婦人だと思はれは為まいかと邪推を回せば回すほど言出すのが難くなッて……それでも弓之助がさも熱心に（深切にも）問ふてくれるのを見れど嬉しさにいつか目はうるんで來ます。

「もし仰ッて差支の無いことならば御聞かせなさッて下さいな」。

「はイ有難うムいます」、やうやくに本文に近い挨拶を出して來て、更にその先鋒といふやうな身の擧動、自由、椅子の縁の鋲なぞを切りにあちこちいだりながら、「實は、妾は、弓之助さん、くやしい事があるのですよ」。

弓之助はむしろ熱心のあまり、疑問の辭を出しもせず、椅子を進めて近よります。

「今夜も夜會に出たのですが、あの貴君も御存じでしやう、此間あの夜會を開いたプリムニイの令孃、ね、あの人が兎角妾に色々な嘲弄を加へまして、今夜もその仲間の令孃たちと一途になッて其中に狩獵の點取りを為やうと言ふンですよ。妾は、實の事、他の貴婦人と違ッて鐵砲なぞ取扱ふことは不得手の方でして、それをあの方たちは御存じなので……御自分は大層御自慢の獵人ですわ……」、面白い嘲弄と為たと思ふまま是でも心は些し勇んで、「一度なんでも何處かの紳士と兎狩に出て馬から御落ちなさッたさうで……はゝゝ」。

「そして獵狩を貴娘にも為さいと御勸めなさッたのですか」。

美麗の話が横途へ入ッたのを陋しむといふ躰で弓之助は問掛

けました。
「えゝ、妾が下手なのを御存じなさつて居ながら、點取を爲やうとて……それが否さに妾が出ませんけれバ此上も無い耻ですし、出てあの方に勝れゝバなは一層面目が厶いませんし、どうしたら好かと思ひますと本當に悲しくなつてまゐりますれ」。
「ではどう爲さらうと思召すのです？」
「どういたしましやう」。問だか答だか譯が分解りません。よほど美麗はこの一事に心を占められて居ることゝ見えて、顏色も何と無く安くなく、はなはだ考に沈んで他の言葉を耳にも止めぬやうかと思へバまた宛も鋭敏らしく浮々と四方を見回したり。けれど弓之助に問はれては何やら賴もしいやうな心持が爲ます。
それから何う爲やう角しやうと色々な相談が有ましたが、つまるところ美麗がその狩獵に出ないといふ譯には行きませんから、鐵砲を取扱ふことに於てはいくらか其道の熟練のある弓之助と連立つて、それから一心に遊獵の稽古を始めやうといふ事に決まりましたが、しかしまた美麗が力めてその稽古をして居るといふ事を相手の令孃に知られまいと苦勞するところから中々容易な場處では爲ません。なるべく他目を避けて居ます。
數日の內にプリムニイの令孃から改まつて遊獵會の招待が來ました。いよ〳〵其會はそれから二三日の內にあるといふ事です。さア斯うなると美麗は今更心配で〳〵たまりません。「陽氣ひとたび發する處金石もまた透る」。一心の力の恐ろしいことは言ふまでゝも無いことで是から交際社會に面目を失ふか、失はぬかの境界に立臨んでは流石に美麗も一生懸命であッたと見えて中々飛道具の熟練をも得ました。が、それでも心配に思はれます。最一度腕を試さうと物を狙ッて擊ッて見る。彈丸は正鵠をあやまたず……けれど「是は僥倖かも知れぬ」の謙遜が心から心に湧きます。更に腕試に擊ッて見る。彈丸は生憎正鵠に中らず……けれど「是は時のあやまちかも知れぬ」の辨護が代ッて差出ます。中ッても不意かと思ひ、中らなくても不意かと思ふ人情の自由自在なことは……はて此處らが靈妙な處かも知れません。
早會日は次の日に差迫りました。今日がその小試驗、又も美麗は弓之助と連立ッて各獵銃を携へてある沼の邊を步いて居ます。十二月の日影は曇らぬ迄もおのづから鈍く、枯葭をいらだてる北風は人の肌にも刄を試みます。水鳥……こゝに

幽邃の景色を娯しんで、そしてこゝに夫婦列を共にして居る、たとへば文明世界の平和の民の面影をうつして居る水鳥たち…それらは物の命を奪ッて愉快とする野蠻人が陸を歩行て居るとも知らず、その陸を歩行く情遊の人たちの有様を學んで居るか、雌雄比翼で泳いて居ます。　もしも閑雅といふ言葉が實際この場の自然の景色を形容するに定りて居るならばその閑雅より外には決して用ゐられる言葉は有りません。　美術の神髓、風韵の精華、それがこの場へあらはれて居ます。　それを、忌はしい、野蠻の名殘の遊獵で打崩さうとする優美の人が有ります。　首を斬る畫に顔を掩ひ、血を流す圖に眼を匿す、あの優美な貴婦人が…否さ自家撞着とは何を言ふ言葉でしやう…肌を匿すのを稱へて居ながら禮服に羅馬の古風を學ぶ、それと同じ部類です。　其處へ至ッては日本の貴婦人…はて旭日孃御驕りあそばせ♪　大和令閨御威張りあそばせ。

發失…急です、俄です…話は是から急になります。　美麗と弓之助との兩人が其處で狩をして居る内に…思はず美麗が氣を籠て引金を引かうとする機會に…靴は…大地はよく水づいて磨いたやうに滑です…情無くも辷ると仝時…あなやと立ッた鋭い一聲…あなやと見返る男の仰天…美麗は泥に身を荷はれて…沼の中へと落入りました。　持ッて居たろの鐵砲？　卑しいことを仰います。　鐵砲どころではありません。　何ですと…弛んだかと？　不吉な文句は御よしなさい。

學藝

蟲の話　其四　半翅類　竹虱附甘露。

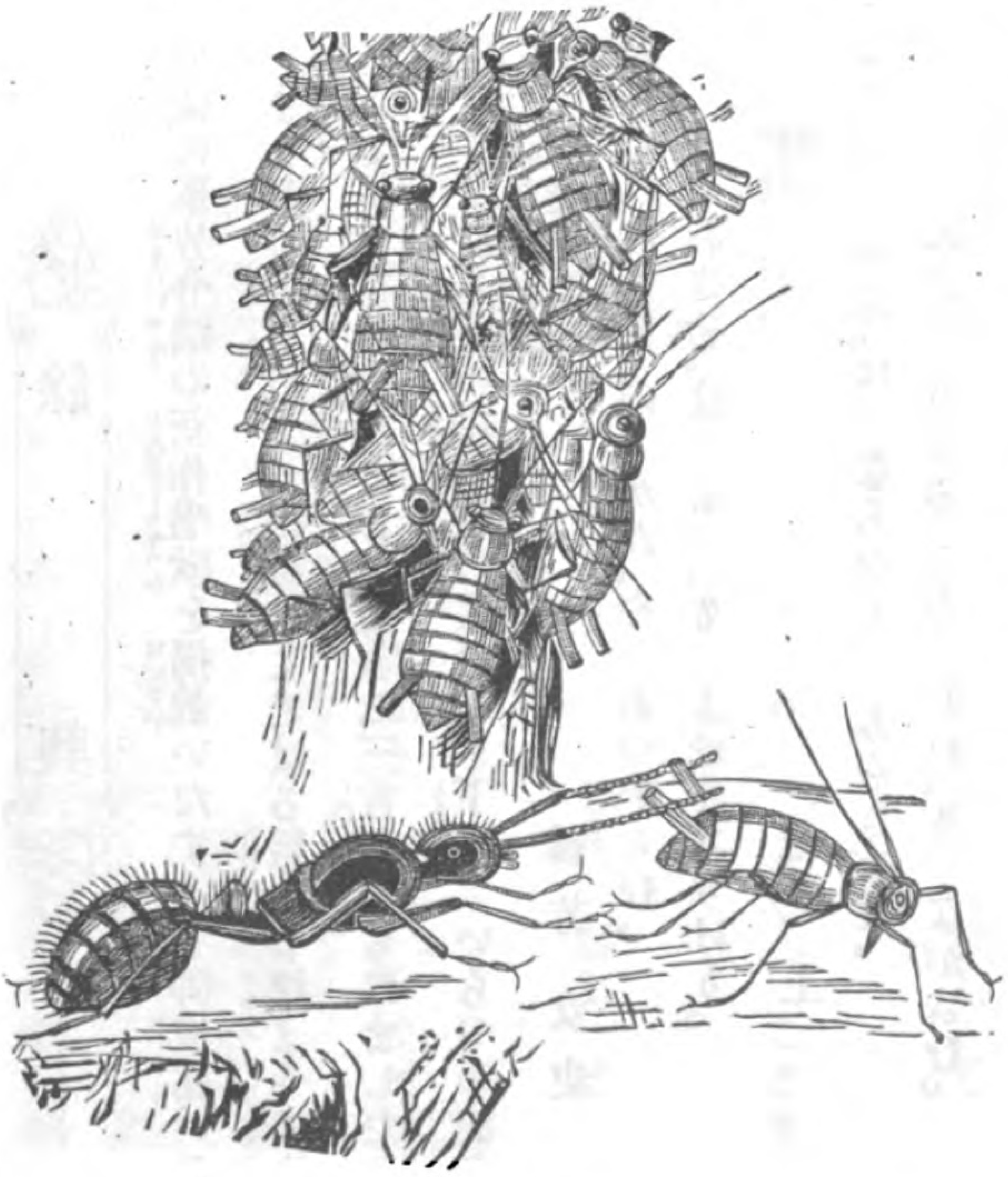
昨年五月頃かと思ひますが上野公園地に甘露が降つたことがございます。　また當年に入りまして諸處方々に降つたとは此頃の新聞紙に載せてございましたから皆さん御存でございませう。　昔から甘露の降るのは太平の瑞相〆とか豐年の吉兆〆とか申して支那の歴史家などは事々しく歴史に書載せ甚しきは甘露の多く降つた年に年號を甘露と改めたこともございます。　我邦でもこれが二十年か三十年以前でありましたらば矢張何とか角とかお芽出度理屈を付けて御幣を擔ぐ人があつたのも知れません。　が今日では學問が開けて甘露の降るのは虫の所爲で世間の治亂に關係のないことが分つてをります。　然し虫が甘露を降らせるといふ事は如何にも不思議なことでありますから今回は甘露を降らせる虫のお話を致しませう。

伺ひ續きました雙翅類のお話は蚊と蠅とに止めまして半翅

類と申して四枚の翅に不同ありて下の二枚は上の翅の半分の大の六足蟲のお話に移りたいと豫ての心組で厶いましたが恰好し甘露を降らせる虫即竹虱（あぶらむし又ありまきといふ）は蟬、まめはんめう、洋紅虫などゝは親類で厶いまして皆半翅類です。　そこで蟬やはんめうの話は後廻しといたし竹虱のお話に掛りませう。　竹虱は夏の初から秋の初まで草木の緑芽に群る小き虫ですが薔薇の花などをお世話なさる淑女方は必らず御存じでせう嫩芽または花梗に澤山虫が群つてをりますこれが即竹虱です。　その種類もいろ／＼ありまして翅のあるのと無いのとがありますが翅の無い種類でも矢張半翅類で無翅類とは別です。　またその色も種々ありますがまづ青色と褐色が通例です体は卵形頭は小く體と同じ長さの觸角を具へ口は鳶口の形に似て嫩芽に刺入れ易く脊に二本の角に似たる管があります。　此管が怪物です。

竹虱の群りゐる草木を動かさずに目を留めて御覽なさい嘴を嫩芽の中に刺入れて靜に植物の養液を吸つてとります此吸つた液は體内で密に化します。　竹虱の小供がまだ自ら液汁を吸ふとが出來ません中は親虱が脊れ管から件の甘液を分泌して小供を養ひますのは哺乳動物が其兒を乳汁で養ふのと異つたとはありません。　竹虱は小供を養ふよりは餘分に蜜を分泌いたしますしまた小供が生長して後も分泌いたします。そこで此餘瀝を頂戴するものは蟻公です。　竹虱か蜜と分泌しませぬと此圖の下に顯す如く蟻が觸角を延して竹虱乃分泌管を擦ります。　すると竹虱も左も心地よげに身動きもせず蜜と分泌いたしますこれを蟻が此上なく賞翫いたします。此分泌が盛になりますと溢れて葉の上に滴ります人が之を嘗めて甘しとし「ハテナ甘露が降つた」と申します。

竹虱甘露を造る圖



竹蝨は蟻の愛妾とも申しまして大切な寶ですからそれはそれは竹蝨の爲には世話をやきまして少しも害を加へる杯のとはムいません竹蝨もまた一向蟻を恐れるともなく蟻の爲るが隨意抗ふとはムいません。蟻が移轉をしたいと思いますと觸角で竹蝨を抱き「此處は最いけないから他へ巣替をしやうじやないか」といはぬばかりの仕こなしに竹蝨が嫩芽に刺入れたる嘴を抜きますと蟻が腹の處を銜へて移轉を始めます。蟻が此處と見定めた處へまいり竹蝨を卸しますと直に其處で竹蝨が蜜の製造に取掛ります。竹蝨は蟻の大切な圍ものですから他の蟻が來て甘味を吸ふといたしますと大變な爭が始まりまして竹蝨をヤッキとなつて隱します蟻の巣の貧富は竹蝨の多少によります竹蝨は蟻の寶です。

瑞西國の博物學者チャーレス、ボンチット氏は千七百四十三年に精密なる實驗をいたしまして竹蝨は交尾ますして蕃殖するとを發見されました。此事は動物學上非常なる大發明でムいますから動物學者は此年を以て動物學上の新紀元と致します。交尾ますして蕃殖するボンチット氏實驗のお話と其蕃殖の驚くべく速なるより起る面白きお話は又此次に。

餘興

前號に孤芳令孃の新作唱歌を掲載いたすよし御披露いたしましたが差支ありて掲載をことはる旨仝令孃より御申越になり、その代りとして和歌二三首を送られましたゆゑ、すなはちその御申越のとほりを下に……いらつめ記者

水邊納涼　孤芳女史

ながれゆく　みおと、の　かた、や　あつからむ、
わさせ、は　なつ、も　よぎまざりけり。

御祓　仝上

いざなぎ、の　かみ、に　ならひて、　みそぎがは、
み、に　きたる、をや　われ、も　ながさむ。

七夕　仝上

ところせく　たむくる　ぬさ、に　あまびとの
つもる　おもひ、も　くみて　こそ　しれ。

おなじ　こゝろ、を　美妙齋

こしかた、も　いま　ゆくすゑ、も　おもふ、よれ
はし、の　ちぎり、の　はかなからめや。

蓮　仝上

みなづき、の　てる　日かしてみ、　はちすば、の
をがさ、に　かくる　花、も　ありけり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

東宮鐵麿寄

うまれし日より道へば立て、
たてばあゆめとよる、ひる、よ
れはし たまひし ちゝ、はゝ、の
めぐみ、ハ つねよ わする まじ。
あさ、ハ とく より ゆふべ まで
おなじ まなび、の おは、に ゐて
むつミ なれあし ともびと、の
まこと、ハ ながく わするまじ。
ひと、の つま たる よ と ならバ、
身の おこなひ、を つゝしみて
かみ、を うやまひ、 しも、を なで、
いへ、の さかえ、を いのる べし。
ひと、の はゝ たる よ と ならバ、
よは、の をしへ、を つゝしみて、
あい、に おぼれず、 おもふ 子(こ)、の
のち、の さかえ、を いのる べし。

こども

美妙齋主人

一

こども、は をとな、の
をとあ、ぞ こども、の
こども、よ あらずや。
こども、よ あらで、
あゝ、 あゝ、 こども。

二

かよわき わし もて
よき 名(な)も のち まで
ゑがきし ひと あり。
ねずみ、を ゑがき、
あゝ、 あゝ、 こども。

三

織機(はた)糸(いと) たえでは
ひごろ、の まよひ、の
すぢ さへ たへ けり。
やうやく はじめて
あゝ、 あゝ、 こども。

四

こども、は 珊瑚(さんご)よ
いひし、ハ むかし、の
忌(いま)しき ことわざ。
やどれる むし と
あゝ、 あゝ、 こども。

五

こども、ハ 珊瑚を
いへる、ハ この 世(よ)、の
すゝめる ことわざ。
つくらん むし と
あゝ、 あゝ、 こども。

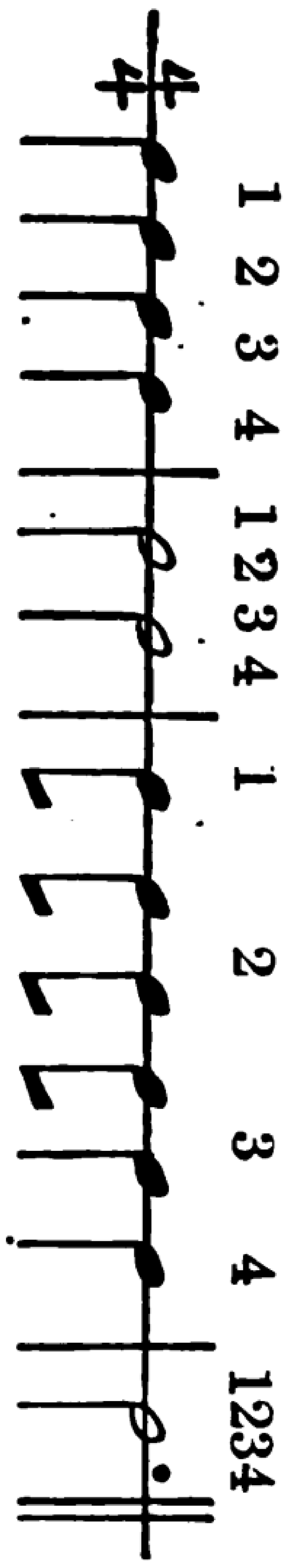
樂典(がくてん)初步(しよほ)。

夢の屋かをる。

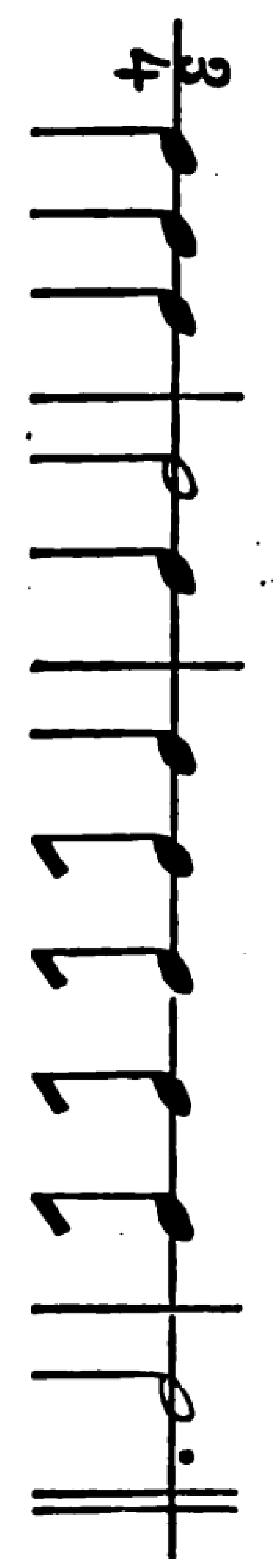
前號よは五線(ごせん)、音符(おんぷ)、休止符(きうしふ)、等を述(の)べ畢(をは)りましたから是(これ)より拍子(ひやうし)の事(こと)を聊(いさゝ)か申し述(の)べて次(つぎ)よ樂譜(がくふ)の搆成(つくりかた)よ移(うつ)りましやう

抑も拍子とは簡短に申せば樂音の歴時に關係する尺度であります。

諸君御承知の通り樂譜の始には４|４又は３|４の如き分數が必ず記してあります、この分數こそ拍子の價格を示す記號です例へば譜表の始に４|４と記したるときは其曲の拍子は即ち四分の四拍子ですから其小節は全音符を四分したもの（即ち四分音符）四個か又は之と同價格の音符を含ねばありません。　左に一例を擧げます。



又３|４と記したるは即ち四分の三拍子ですから其曲の一小節には四分音符三個か又は之と同位格のものを含まねばありません。　次に一例を掲げます。



彼様な風に樂曲の拍子は總て其譜の始なる分數（即ち拍子記號）の指示に從ふものです但時としては４|４の場合にＣの字を記する事がありますが其意味に別段變りはありません又₵の如く縱線を施したるは四分の四の急拍子です。

偖拍子には四分の四の如き平等なものと四分の三の如き不平等なものとの二種ありまして此二種は各々更に單純集合の二つに分れますから拍子の總種類は隨分澤山な數になります其一覽表は凡そ左の通りです。

拍子

- 平等
  - 單純
    - 四分ノ四
    - 四分ノ三
  - 集合
    - 四分ノ六（四分ノ三ノ二小節ヲ合セルモノ）
    - 八分ノ六（八分ノ三ノ二小節ヲ合セルモノ）
    - 八分ノ十二（八分ノ六ノ二小節ヲ合セルモノ）
- 平等
  - 單純
    - 二分ノ三
    - 四分ノ三
    - 八分ノ三
  - 集合
    - 四分ノ九（二分ノ三ノ變體）
    - 八分ノ九（四分ノ三ノ變體）
    - 十六分ノ九（八分ノ三ノ變體）

前表の諸拍子は樂曲の性質によりて頗る適不適があります。　例ば四分の四の如き四角な拍子は自然嚴正の樂曲に適し八分の六の如き滑な拍子は自から流暢な曲に適します且つ偶數即ち平等拍子は初學の人も之を拍に困難を覺ませんが奇

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

數即ち不等拍子は初歩の人にはなか〳〵容易に拍てませんてとに八分の六拍子は其出生が不等拍子ですから動すれば變に化けたがります其證據には世間で大抵な方は彼の寧樂の都や燕の曲を奇數ともつかず偶數ともつかざる一種の變拍子で澄して唱つてお出です。

拍子の御話は先づ一段落として是より樂譜の構成に移ります

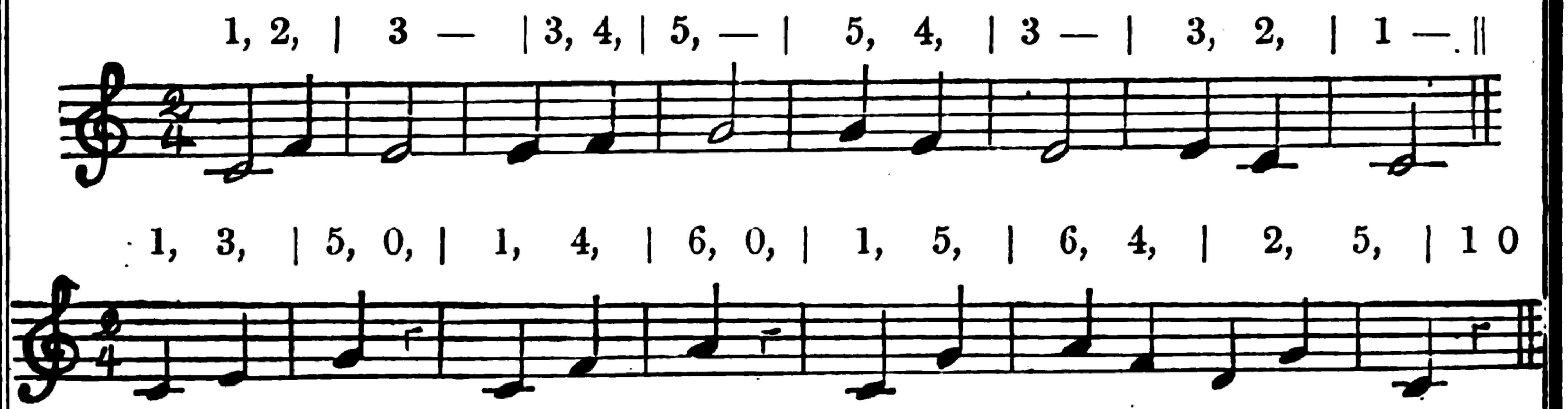
(1) 1,2,|3—|3,4,|5—|5,4,|3—|3,2,|1—‖
ハニ　ホ　ホヘ　ト　トヘ　ホ　ホニ　ハ

(2) 1,3,|5,0,|1,4,|6,0,|1,5,|6,4,|2,5,|1,0,‖
ハホ　ト　ハヘ　イ　ハト　イヘ　ニト　ハ

右の二例は略譜の説明に使つたものでありますシテ此二曲はいづれも(ハ)調に成れるものとお看做を願ひます。

今第一例を樂譜に構成せんに其順序は

(1) 譜表の五線を引き
(2) 五線の首部に音部記號(ト字記號)を記し
(3) 音部記號の次に拍子記號の分數2/4を記し
(4) 略譜第一小節なる1,2,の二短音を其相當音符（即ち四分音符）に變じて(ハ)(ニ)の位置（即ち下の第一線、同第一間）に記し其次に小節區分の縱線を施し
(5) 第二小節なる3—の一長音を半音符に變じて(ホ)の位地に記して縱線を施し
(6) 以下の小節は總て同方法にて之を施し
(7) 第八小節即ち曲尾には複縱線を施し更に至りて數字の略譜は忽ち立派な樂譜を變じました、諸君上の第一段の譜を御覽下さい



第二例を同方法で記譜すれば上の第二段の譜の通りです但此譜には0,に相當せる休止符が新規に加はりまたし

流行

單物

去年一寸出た物ですから御珍らしくも有るまいと存じて今迄ハ揭げませんでしたが、中々容易ならぬ勢で流行しますから一口述べますが、單物で大層今流行する色合ハ裏葉柳で、もとより成服とは言へず、たゞ浴衣か乃至納涼の時にのみ用ゐて宜い物ですけれど婦人がたの中にハ一も二も無く之に熱心して居る人もあります。年增向、娘向およひ子供向ともいづれも可なりな趣向で出來て居ます。

之に次で流行するのハ玉ちりめんです。

之よりも上等の方になッてハ御召、烏帽子などが矢張り行はれて居ます。色合ハ重に鼠物と茶ものです。

縮珍の帶

前號にも出しましたが縮珍の帶がいよ〳〵よく行はれて來ます。正會へ出る時にハ繻子などハちと幅が利かなくなりました。

開化牡丹の簪

驚きましたのハ開化牡丹の簪の流行で、現に去る八日鹿鳴館であッた演藝矯風會の時出席された貴婦人令孃方の中で和服の人の大抵、四分通りハ(尤も重に令孃の方)皆此開化牡丹の簪を用ゐられて居ました。趣向ハまだ上等といふほどの簪でもムいませんが、たゞ珍らしいためなのでしやう。

金足水晶玉の簪

どうしたのか此頃金足水晶玉の簪がチラホラ出て來ました。

銀蒔畫の櫛

櫛の目下流行の形はやハり牡丹形ですが、重に金蒔畫のより銀蒔畫の方が人氣が有ります。

すみれの香水

菫菜の香水がそろ〳〵流行出しましたが、しかし、香が早く消失せるのが一寸瑕があッて居ます。

香水瓶を下げること。

愛らしい奇麗な香水瓶を金銀の鎖で帶の橫腹の邊へ下げる事が新奇に出來ました。

婦人洋服の飾釦鈕を襟留に用ゐること。

是ハ半襟のはせ口を止めるためで、あまり面白い趣向でもありません此風が中々流行しそうです。

朧銀の時計側

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

・時計側が臘銀で極澁く、そして山水や四君子の至美人の肖像がその側に浮彫になッて居るのに餘程人氣が有ります。

之に續くのは

玉蟲くしの時計鎖

で、色々な寶石で時計鎖を作る事で、無論重に婦人持とすべき物です。

孔雀扇

是も前號に御約束いたして置きまして西洋にも有ります。西洋でハ之をポルシヤ、ファンと呼び、一寸その體裁を言へば羽團扇のやうなもので、すべて孔雀の尾で製するのですから、その美しさハ實に言語に絶えて居ます。しかし孔雀の羽には御承知のとほり裏表がありますから、その不體裁を防ぐため一枚づゝ互に貼合せて作ります。大抵の扇子屋で製造します。

藤紫繻子萠黄錦製紙屑籠

盆燈籠の不用になッたのだの、目籠の役に立たなくなッたのだの、それらを更に活用すれバ立派に、體裁のよい紙屑籠が出來ます。と申せばその製造法ハ大抵御わかりの事でしやう。つまり先萠黄錦を最初に地として張りその緣として藤紫繻子を張るのです。　錦を御嫌ひなら繻子のみでもよろしうムいます。　隨分淑女の方々が學校で御おぼえになッた縫取の術をその張る切に施せバ不思議にゆかしい道具が出來ます。

米國貴婦人間の日本風の流行。

之ハ容易ならぬ箇條です。　一度ミカド芝居があッてから以來日本風の優美といふ考ハ大分米國貴婦人社會の中に起りまして遂にその極ミカド風といふ髪の結ひぶりがはじまッたさうです。　その結ひ方ハ何のやうな物ですか圖で見ても確と分解りませず、またあのとほりの縮毛ですからどうせ日本風の通り結べないのハ明白な事ですが、兎に角唐人髷の出來損や島田と束髪との間子などの髪形が專ら行ハれて居ます。是ハ只髪にのみ就ていふ御話ですが、猶その上尤も重要なのハ米國の貴婦人が日本服を好んで着用し、夜會に新奇を競始めし事です。併しながら大風にでも逢へバ裾が吹捲くられるのが日本服の不都合です。それで面白い新案を貴婦人たちは用ゐました。　それハどういふ事かと言ふと、御存でもムいましやう、ホーム、ドレスなどに重く蝶々飾(垂下の辮髪を飾る平絹のとほりの結方)、それを前の合はせ目へ付けてピンで止め、それで風などに前の吹開くのを防いで居ます。尤も膝

から下は自由に開くやうになツて居ます。　それで無ければ又歩行けません。

さて是です、その圖は次號に於てくはしく御目に掛けますが、またいさゝか記者が淑女の方々に御望みまをす處が有るのです。　隨分なよやかな衣服で公園を散歩して居らッしやいましても不作法な横風や何かに襲はれて御困却なさるのは毎度記者なども見受けました處でまた毎度何かいゝ方案は無いかと御尋を受けました事もあります。　それを此位の造作も無いことで防げれば實に日本服に一層の進歩です。　元來いまゝで日本服が洋服に一歩を讓ッて居たのは重にこの一點にありましたので一局部の人を除くの外その外は衛生上の點から見ても、美術上の點から見ても万々洋服に優ッて居ると許されて居たのです。　それにこの翼が加はりました。　もしや次號に揭げる圖面を見て御氣に入りましたら試に行ッて御覽なさい。　尤も次號には記者の考按に係るものをも添へるつもりです。

化粧

曹達で髮毛を洗ふ善惡

「曹達で髮毛をあらふのが一番好い。　垢をよく洗去ッて仕舞ふから。」　斯う言ッて曹達で髮を洗ふ人が大分有りますが、是が至極わるう厶います。　曹達は垢を去るかはりまた油氣をも去るものですから、之を用ゐて居るのはつまり毛を脆くするやうに力めるのと仝じことで、遂には毛も擦切れて仕舞ひます。

髮毛をよく保存させる法

第一、つまらぬ油を御塗りなさつてはいけません、塗ッてよろしい油は左のものに限ります。

橄欖油一オンスの中へ蠶豆ほどの大きさの蜜蠟を鎔かし込み、それへ薔薇油を一二滴落したもの。

是を適宜に塗るのです。

更に其次に大切なのは髮を洗ふ品物です。　髮を洗ふのに毛に害を致さず而も毛の藥になるのは硼砂と水で洗ふの上越すものはありません。　此外に最う一種類の方法が有りますが、今試驗中ゆゑ善惡は述べられません。

次號に記載する化粧品々
- 毛を延ばす奇法。
- 牛乳で顏を洗ふ善惡。
- 肉色を麗はしい薄紅色にする法。

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

講義

記者申す、用器畫稽古の仕方は號を重ねて本誌に掲ぐること既に五回に到り、問題の數二十八に達したれば各地より問題の答を寄らるゝ方々も尠からず、依て本社はひ、さ、君に乞ふて答の當否を判斷し以後用器畫を學び玉ふ方々の修業の便を計らんとす。爾後本欄の講義に就て御質疑あり又問題の答を爲され度方々は本社へ御通報被成度候。

用器畫稽古の仕方（第五回）　ひ、さ、述。

三角形とは三個の直線にて作りたる平面形のことにて、其直線を三角形の邊と申します。三角形の邊の長皆等しきものを等邊三角形と言ひ、其二邊のみ等しきを二等邊三角形と稱へ、三邊皆等しからざるものを不等邊三角形と申します。三角形の邊の長を任意にすれば雜作もなく書けますが形を限り又は邊の長を定むる時例へば、等邊三角形を書け（甲）、或は一寸と一寸七分と二寸の三直線を以て不等邊三角形を書け（乙）、等の問題に答ふるには少しは工夫を要します。

されば甲の問題を工夫するには先づ三本の等しき長の鉛筆にて一個の三角形を作り假りに其鉛筆を三直線なりと想像して御覽なさい。さて一本の鉛筆を机上に横へ、右、左の手に各一本宛を執り、其一端を横へたる鉛筆の兩端に立て、立てたる鉛筆を互に傾けて其一端相會ふに至れば乃ち等邊三角形が出來ます。但し二本の鉛筆のどちらかゞ傾き過ぎば其兩端が正しく相會ふまで起したり、伏せたりせねばなりません。うく鉛筆を伏せ起しする時其兩端が經過する痕跡は何如なるかを御考なさるればコムパスを用ひて甲の問題を書く工夫が出來ませう甲の問題が出來れば乙の問題の答も出來ませう。二等邊三角形にては其等しき二邊が作る角を頂角と言ひ、其頂角に對する一邊を底と稱へます。前題の書法によりて次の問題を御工夫なれ。

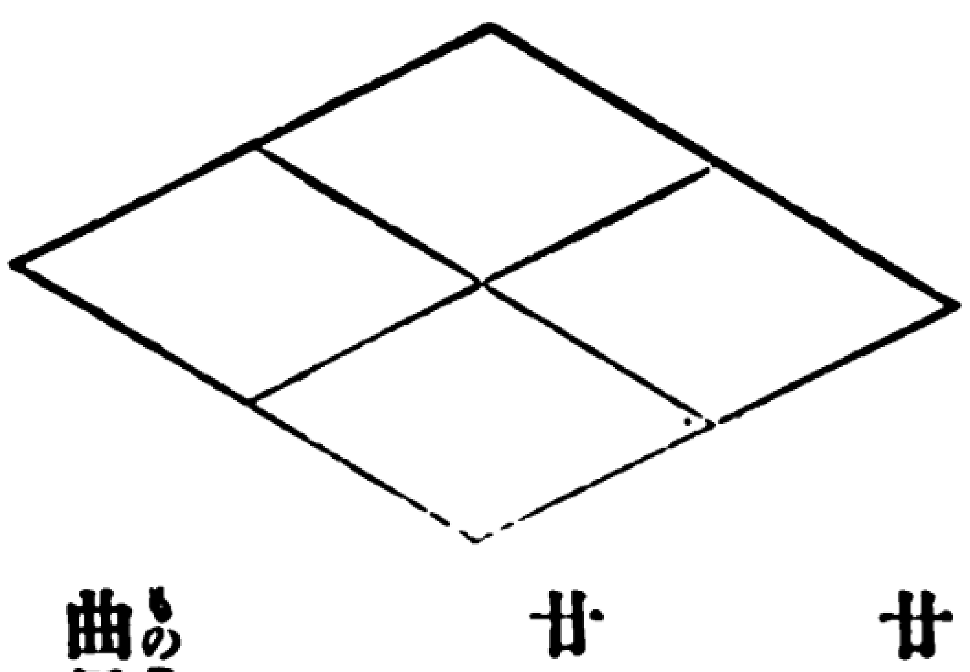
十八、一個の二等邊三角を書け、但し其底を一寸二分とし、二邊を各一寸五分とす。

十九、十八題に於て書きたる二等邊三角形の底の上に一個の二等邊三角形を書け。

四邊形の邊皆等しく相對する角のみ等しきものを菱形と稱へます、菱形の對角線は一は長く一は短う御座ります。前題の書法によりて次題の書法を御工夫あれ。

二十、四邊各一寸にして、短き對角線一寸二分の菱形を書け。

菱形内に長短の二對角線を書けば四個の等しき三角形が出來ます、又其兩對角線は互に二等分します。されば此理を應用し、コムパスを用ひて（曲尺を用ふるを禁ず）一直線を二等分する法を御工夫あれ。



第七圖

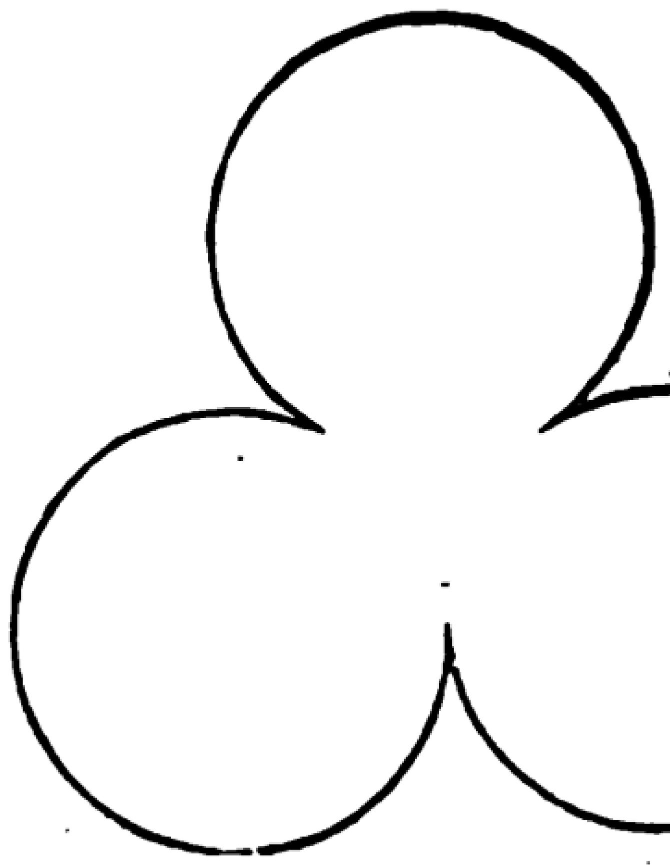
廿一、上圖は武田菱ですが、之を正しく書く法方は何如。但豫て邊と兩對角線の長を定め置くを良とす。

廿二、第八圖は等しき對弧を三個集め作りたるスアマ形ですが、之を正しく書く法は何如。但し豫て弧に屬する直徑を定め置くを良とす。

曲尺を用ひずして以下の七題を書く法

を御工夫あさい。

第八圖



廿三、定直線を弦として一個の半圓形を書く法ハ何如。

廿四、一個の等邊三角形あり、之を二個の等しき三角形に分割る法ハ何如。

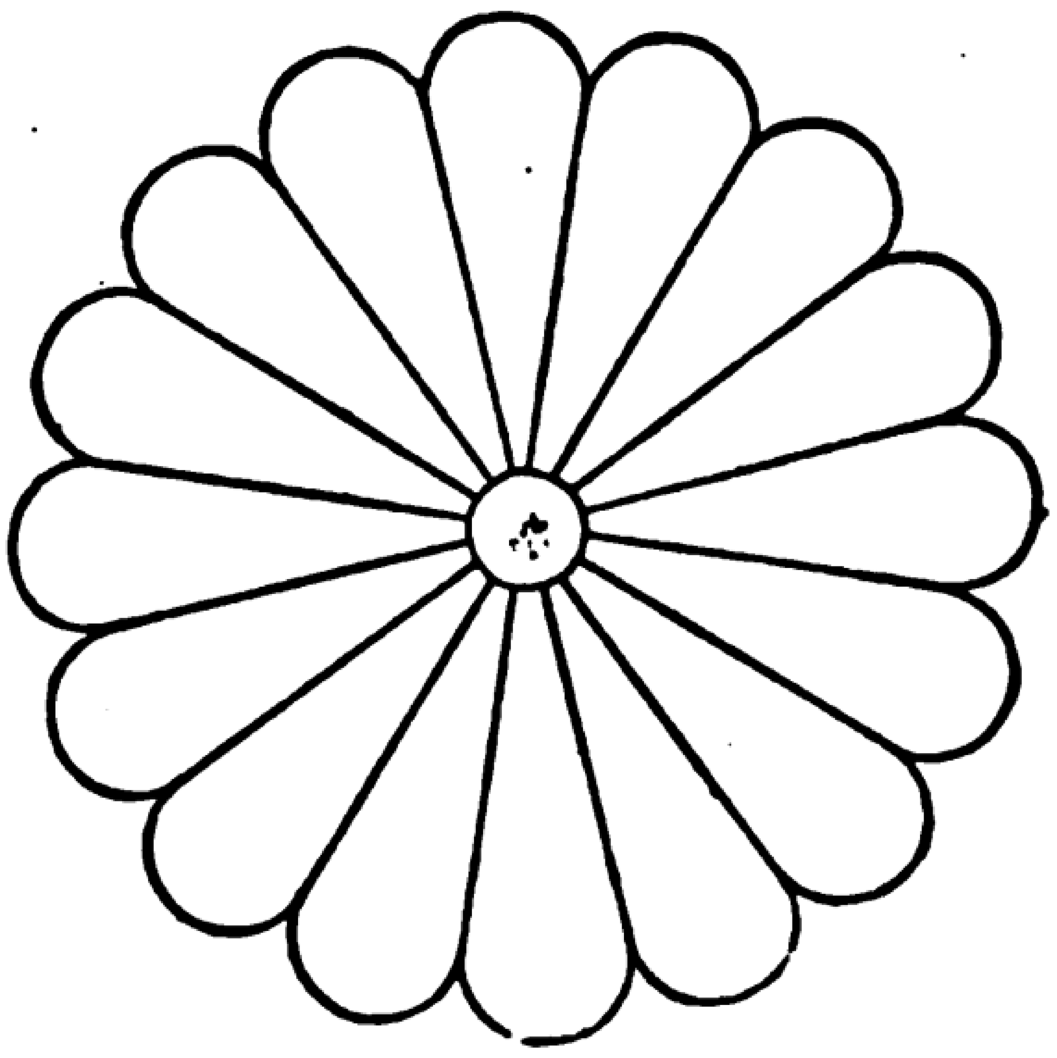
廿五、一個の分圓あり、之を二個の等しき分圓に分割る法ハ何如。

廿六、一直線を圓徑と爲して一個の圓形を書き、其圓を四個の等しき分圓即ち四分圓に分つ法ハ何如、又同し圓を八個の等しき分圓に分つ法は何如。

廿七、半徑二寸七分の圓形を書き其圓内に一個の正八面形を容るゝ法は何如。

廿八、第九圖ハ十六菊の御紋ですが、此御紋を精確に書きて後、第十題より第十二題の理を應用して唐草の摸樣を添へ成る丈面白き摸樣を書かれかし。

第九圖



雜纂

文學大家平生會話の巧拙

是ハ倫敦のいらつめ雜誌(Young Ladies' Journal)に出て居た奇説で、文學大家が如何にも大抵平生會話が拙であッたといふ事がよくしらべてあります。その文に、

「タッソ(以太利の詩人)の會話ハ花やかでなく、グレイ(英國の詩人)のハ極めて罕、バトラー(仝上)のハ意地わるさう、ミルトン(仝上)のハ憎らしさう、ラ、フオンテン(佛國の詩人及小說家)のハ鈍くて而も目で見た事を容易に言へず、チヨーサー(英國の詩人)のハ寧默して居た方が言ふよりも快く、ドライデン(仝上)のハ何處やら卑しく、ゴールドスミス(仝上及小說家)のハ極めて馬鹿げ、そしてカーライル(英國の文章家)のハ喧嘩めいて居ました」。

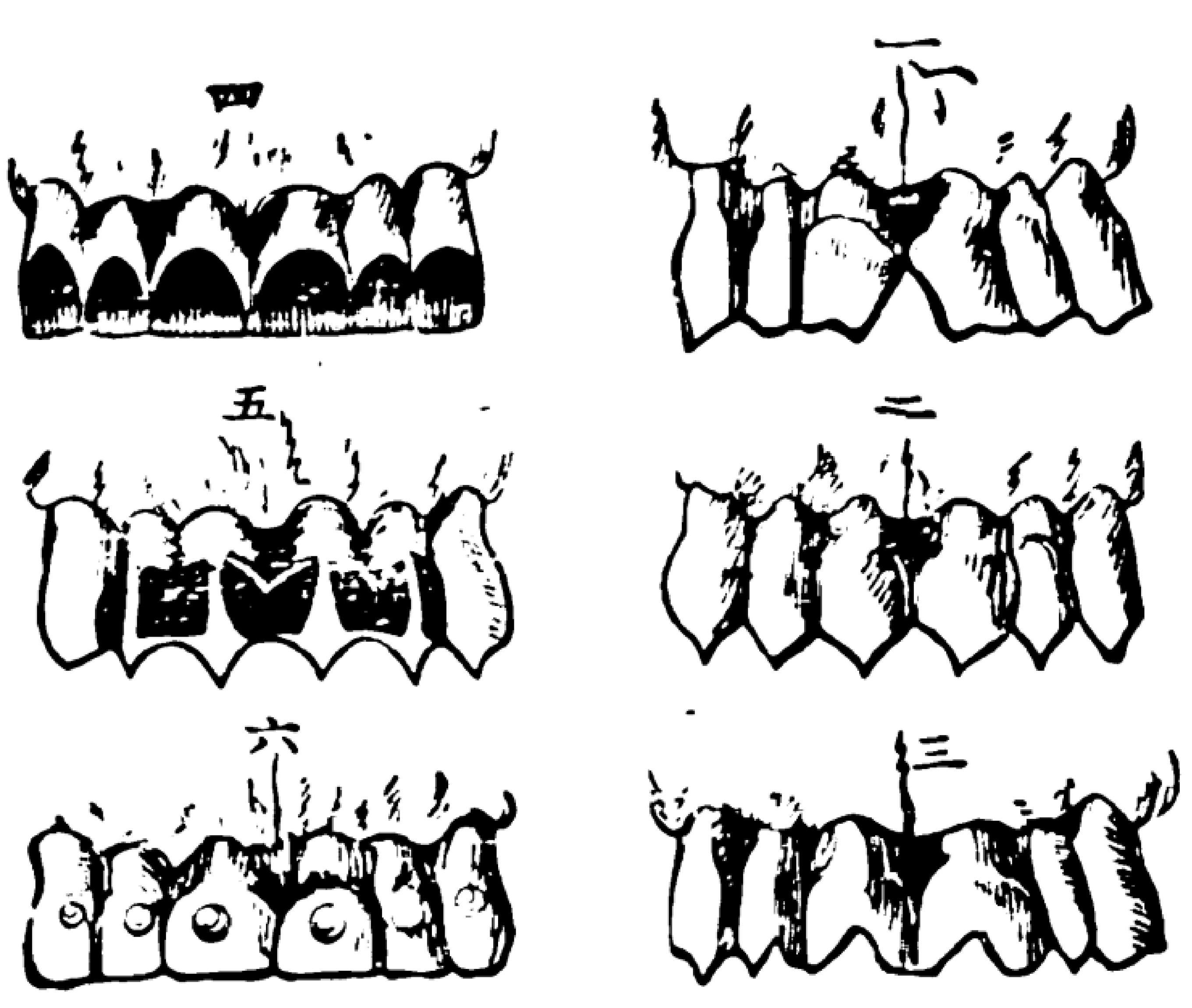
これを見て淑女の方々ハ何如おぼしめす？　文學の大家を氣取ッてわざと辨をわるくなさいますか。それとも天稟の御美質の上にハ快辨の花を御加へなさいますか。で、なければオシヤベ……否そンな言葉を方々ハ御存じありませんでしたッけ。

人工の片輪　(つゞき)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

齒は天然の美麗を具ふるものなれば世界中大抵は天然の形を存すといへどもアフリカの内部とマレイ諸島にては人工を加へて片輪となすの風習あり勿論細工を施し易き上切齒のみに限るなりアフリカの赤道直下にては種々なる細工を施せども其中最も簡單なるは中央切齒の下端を角取に削り取りて磨き上るなり故に齒列の中央に大なる凹を生ず(第一圖)。又齒の下端の二角を削り取りて之を尖らしたる樣は鰐魚の顎もかくやと思ふばかりなるあり(第二圖)。又齒の下端を三角に剝りて鋸齒の如くなすあり(第三圖)。

野蠻人形の齒



マレイ諸島に於ては此風習一層廣く行はれ其細工もまた込入りたるもの多し。　天然の皓齒は大に吾人の美とする處なるにマレイ人は齒の皓きを厭ひ苦勞して齒を涅め以て美麗を增したりとなす瓜哇島に於て一般に行はるゝ風は切齒犬齒の琺瑯質を剝ぎ取り深く軟質に達するものあり而して齒端は浮石を以て滑磨して一齊となす(第四圖)。又齒の下端を尖らし上部の兩旁に於て琺瑯質を剝ぎ唯中央に於て菱形の琺瑯質を留む而して琺瑯質の損じたる部分は剝取りたる部分より鐵漿に染み難きを以て判然と菱紋を顯出するあり(第五圖)。　ボルチオに於ては一層込入りたる細工をなす先づ齒の中央に圓孔を穿ち之に圓き星ある眞鍮の栓を嵌むるあり此星は唇に觸るゝが爲に常に輝けり此容貌はボルチオ人の最も愛する處なりといふ(第六圖)。

瓜哇の此風習は其隣地なる亞細亞大陸の上流社會に傳播したるものと見え千八百八十年英國に入りし暹羅公使は其齒を第四圖の如く細工したりしといふ。　さて此風習は唯裝飾の爲のみならず一種の儀式となるものゝ如しオーストラリアにては少年の丁年に達したる時の儀式となしサンドウィッチにては死靈の菩提を弔ふため之をなすといふ。

以上述べたる頭髪、耳、鼻、唇、歯の如き外面に露はれ撓め易きものは之を變形し得るとするも誰か頭顱の容もまた一時の流行一國の風習の爲に變形せられんと謂はんや頭容を變ずるの風習は最古くして希臘時代より行はれ最も廣くして世界到る處に流行したり。何故かく古代より永續するやといふに一たび此風習定まりて後は其種族の破滅の爲か或は大有力者ありて此異風を破却するに非るよりは斷絶することなし風習の力の甚しきはチヌック種族の間に行はるゝ有樣を見て知るべしチヌックの婦人にして其子の頭　容を適當に作る能はざれば怠惰なる母或は務を知らぬ母なる評判を立てられ其子もまた子供朋輩の中にも笑ものとなりて疎外せらるといふチヌック人の中にも病氣または其他の原因の爲に頭　容を變ずる能はず天然の形を保つものあり是等は決して立身出世すると能はざるのみならず遂には奴隷に賣らるゝを常とす其風俗の永續するもまた故あるかな。

此風習は上古より行はれしものと見え希臘の史家ヘロドタス氏の書に此風習の行はれしとを記したり近年古物學上の發見によりてヘロドタス氏の我を欺かざるを知れり種々なる恰好に變形したる多數の髑髏を掘出したるに其地はコーカサス山の麓クリミア及ダニユーブ河畔ハンガリー南日耳曼瑞西フランス比耳義に渉りヘロドタス氏の書にいふ處と符節を合す今日其遺風未た全くフランスに跡を絶たず。アフリカオーストラリヤには之に類したる風俗存せずと雖アシアポリチシアの各地には尙此風ありアメリカは此等異風の本陣とも稱すべく殊に北部に於てはコロムビア河の口南部に於てはペリウ國を盛なりとすコロムビア河畔のチヌック印度人及びバンクーバーは此風俗を傳へて今尙盛なり故に其變形の方法は旅客の之を記するもの多し其記する處によれば嬰兒の始めて生るゝや否や其法を施し八ヶ月或は一ヶ年の間之を永續すその時までに頭容は已に欲する如き恰好となる之を目擊したるケーン

チヌック小兒の扁頭

氏の談話によれば「此法を施すときは必らず苦痛を感ずるとならんと思ひしに目は壓迫の爲に眼窠を外れて飛出でたるやうに見ゆれども嬰兒の啼聲をも聞かず呻吟をも聞かざり

き。されども縛帯を弛めしとき乍ち啼聲を放ちて暫啼已まざりしを見たり是れ恐らくハ壓迫を受くる間嬰兒の啼かざりしハ頭部不仁となりしが故ならんまた縛帯を弛めて啼出せしハ壓迫去りて感覺元に復して苦痛を感ずるが爲ならんと。(未完)

批評

批評主任「君、御苦勞ながら此小説の批評を助て貰ひたいナ。」補助「半道から附け敵とハチト不承知だが…宜しい、云かし同しくはアノ赤拍子の金字と云ふ威勢のいゝ處に云たいチ。」主「ナニ、是れかエ、イヤづるい人だ、是が短いものだから…。」助「近頃の書籍は短くてさへ通讀し兼るやつが多いよ。」主「堂も敵役よりハ半道の方が口がわるい様だアハ…。」助「時に口がわるいと云へばドーダエ先生、いらつめの批評も今すこし譽めて遣つてハ。外の新聞屋ハミンナ譽める方たぜ。」主「ナニ譽めて貰ひたいなら支那公使館へデモ遣るがいゝ。いらつめの評を御求めになるのハいらつめが直筆だからいらつめの好評を眞の好評と認めて求められるノダ。」助「それもさうだナア。尤商賣人ハいくら惡口を云ッてもナニカ體裁よく廉が取れて居るが、御素人方の惡態ハ實に恐れべデゲス。その中狡猾あのハチソレアノ理論の處でハ何かわからん洋語を二ッ三ッ並べて理窟ありさうにこけれどし、罵詈讒謗の處でハ日本詞の云ふも傳棒でやつゝける様な投書杯もあるぜ。」主「云かしそんな投書ハいらつめナヲ採用ハしないナア。」助「サウヨ、あんなのハいらつめよりか金棒曳のお神さんニでも持て行つて賴むだらう。」看客「モシ批評屋サン批評の前置きも短い方がいゝよ。」主助「ヘイ只今。」又一人「カンカンエー、キウレンクワン、グウドモーコン、トラヤアヤア、キンニヤウニヤウ。汝批評者褊狭狠戻箆捧馬鹿。」主助「ヘイ〳〵恐れ入り奉ります…ハテ不思議いらつめの看客としてハ御不似合なる今の句調…ム、分つた。」主「いらつめの句調にハ稍遠し。」助「金棒曳にハ稍近し。」兩人「イヨイヨ本郷の隊長…。」主又又一人「先生、批評をお早く願ひます。」助「オヤ中央堂の小僧さんか。」

明治唱歌第一集中央堂發兌

總體論でハ近來出色の選です。(批評主任曰ハく「人の口眞似をするあイ。」)なぜなれバ大和田建樹さんの作が此卷の多分を占めて、ソシテ大和田さんの御手際は既に詩人の春で弊社の批評主任も敬服した次第ゆゑ、此卷も勿論よい筈です。まづからう贊成して置いてそれからチ」逐條論。(譜の批評ハ追て)奥好義さんの序文は最初にメイソン先生の功勞を述べ次ぎに上辻兩氏と同學の情を述べた計り、僅か十餘行の間に「此度の事も全く御師匠さんの御蔭と御友達の骨折」と謙遜した美徳が溢れて居ます。「物數いハず」何とやらいふハ此事で、殊に夫れが爲め石版書が出ましたから女子供ハ(コレハ失敬)御婦人や御小供衆ハ喜ひました。是れが卷中第一の出來で支那流でハ敬々服々と云ふ處たが當流ではイヨイヨと申します。

次に大和田さんの「序に代ふる歌」は單に歌の德を御擧めに成つた事のやうで。歌の善惡ハさし置き歌集の序としてハ餘り曲が無いと思ハれます。殊に歌集の序に歌とハチト

うるさいでハ有りまんか。　是れは蛇のアンヨさ。

本文の開卷にある新年の歌ハ万々に目出度いと申すべきのみ。全體此度の大和田さんの御作ハ、凡例に御斷りの意味もあつて奇作ハ實に寡う御座ります。けれども「故郷の空」「朝雲雀」等の作ハ流石先生で是れ等の句調ハ和漢洋の歌を嚙みしめた者でなくてハ出來ません。其外にも「磯の山白く月ハ出でぬ……芦火燒く影の遠く動く……」等ハ皆一調子替つて其實ハ詩から來たものらしい（新古今集に多いです）。慾を申せば此の丈は折々つきのわるい字音を遣ハれます「ふみよむ小窓にかゝりしせうび」の如き是なり（オヤソロ〱地金デスネ）「せうび」がわるいではなけれども「ふみよむ」抔と始めに侍り給ふたから底で「せうび」が耳にたつのです。此の外此の類がヨッポド多い。

下田さんの「紀元節」は更に新奇な處はありませんが御婦人に似合はぬ勇敢の句調には恐れいりました無遠慮なる田舍紳士は御轉婆ダの慳貪ダのと申すが僕ハ上等の紳士ダから左樣ハ申さないエ、ト音羽屋ア、（チト違ッたか知らん）。

第二十九枚「きたれやきたれエ」オヤオヤ、ヒュードロの一件なら矢張音羽屋カ。左樣でハ無いシャンシャカシャンの一件で例の「皇國の守」ヨ。あれハ作者が唱歌改良を唱へた時分所謂鐵面會主義の歌で遼蘆宜一宿芻狗豈再施といふ樣な者です（オヤ又地金カ）。作者も當初ハ堀の埋草と思ハれたであらうのに、枝が咲き花が咲き、いつまで草のいつまでも世の笑草にならうとハ（是れハ弊社の美妙が眞似の積りなり）。其れさへあるに大和田さんまでがシャンシャカシャンの調子に乗つて「日本男兒」「けふよる友」「別れの血しほ」なぞハ實に堂も麻布でげす（これハ万葉時代の洒落あるかも）。嗚呼（チト庇爪らしいが）美術家と鑒識家と必しも同じからず（ソノセイカ僕にハ歌が出來ナイ）と誰やらも言つたッケ。

近來頻りに腕力の歌が出るが扨はや誠に堂も何か恠しい物が多い中に上氏の競漕歌抔ハまづよろしい中でせう。全體ハ唯尋常といふのみそれゆゑ賤しき處もなし。「ナゼナゼナゼ……イザイザイザ……」といふ處ハ辭も勇まし樂譜上（モシ〱ソレハ言ふ丈野暮）「腕のよわさ腕のよわさ」の一句ハ四首中の眼肉。

種々樣々の音曲を語り傳へて最早卷軸に至りました。天長節の歌ハ矢張シャンシャカシャン筋で「愉快ヂヤ」。次に「クリストマス」の歌ハ日本流でハ堂も精進の心地がしますが兎に角有り難いアーメン。

藪の鶯

花圃女史田邊令孃著、本町金港堂出版。

藪の鶯の批評に於て著者の益として見るべきものハ國民之友廿五號の附錄にある石橋忍月氏の批評です。　その批評でハ第一に藪の鶯に。主人公の無いのを難じ、第二に境遇變轉の無いのを難じ、第三に異名仝人のあるのを難じ、そして第四に人物の言語に就て肝要な欠點を難じてあります。實に記者もこの批評にハ贊成を表します。そして藪の鶯の中に巧妙なる點に於ても諸新聞雜誌で大概評し盡くしてありますから是れから此處でその殘餘の處を一寸言ふ心得です。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第一「外題の付方」。「藪の鶯」と付けて「やぶうぐひす」とせず、流行の「の」を入れられたのはむしろ簡健を欠く心持が爲ます。

第二　山中と濱子との一條は全篇の眼目で、褒める人も澤山ありますが、記者はまだ殘る憾が無くもありません。それは濱子の性質が女尊主義を實行して居る癖に山中が情婦と共謀して勝手に濱子の家財を持出したのを知らずに居て、後にはじめて心付いた事です。　山中は濱子の足下に蹈敷かれて居て觀音坂下まで辻車の飛乘が無上の樂しみだとある、本文もありますのにこの結び方では何やら變です。

第三　阿貞のゆすりが役に立たなかッたのが玉に瑕です。　ゆすりが無くても後の結果は出來るに違ありません。　ゆすりの行ひ方は可なり上出來です。　けれどその用ゐ方は不出來です。

第四　房子が紅葉を觀て歌を殘すところの趣向は篠原勤と結婚する爲の楔子で別にあたらしい趣向でもありません、殊に歌を殘すのは何處となく角が立て居るやうに思はれます。「あふ坂の關の清水にかげみえていまや引くらん望月の駒」。「あふさかの關のいはかどふみ鳴らし、山たちいづるきり原の駒」。この相違に御氣を御注めなさいませ。

第五　春のや主人も言はれましたが、下流の趣を書いてあることと、ことばが惜しい事でした。

第六　阿貞が年に似合はず、物の言樣のあどけないといふのは可でもありません。

第七　全篇如何にも「穿つ」といふことが少いのが殘念です。

第八　文に巧みな處の少ないのもまた一入…大凡此やぶの鶯について記者が猶不滿の處が以上の處ですその外で敬服する斗です。　事々しく此處が巧だの此處が妙だのと評するのも烏滸の業です。

本郷W、S生に

女學雑誌第百十二號に出たW、S生のいらつめ批評の評で更にいらつめの十二號で批評しましたが、今度また前の雑誌の第百十四號に其續稿が出ましたから一寸批評者に代ッて御答へを…

「次に文格の一致を破ッたのは惡いといらつめで評したのは雑貨商店に向ッて「何故貴樣は茶の一品賣を仕らぬぞ」と責めるのと全じ事」などとW、S生は言はれましたが、是は全體文格の一致を破ッたのがいゝか惡いか其一條が決定せぬ内はどうともなる推論ゆゑ、既にその善惡をいらつめ第十二號でいらつめ記者が答へた以上は更に重複に論ずる迄でも無い事です。

次に「鴟文」とはいらつめ記者が言ッた事に就てW、S生はホンの穴さがしの勞を執て居られる樣です。　それはどうでもいゝとしてW、S生は「何とうたてき限りにては候はぬか」は雅俗言混淆れ一種れ文體を採用した迄で決して強ちに古文を撰びに撰んだのでも無い」と辨護を爲さいます。　なる程左樣でもありましやう。　そンなら混淆が下手でした。　實に之を「何と」など故らに後世の俗語を醉狂らしく用上げて而も不妥の句を作るよりもむしろ「いかに」などゝ爲た方が却ッていゝでは有りませんか。　何故に此時に「何と」と使はなくてはならぬ必要が有りますか。　さアそれを伺ひましやう。　雅

俗混淆と言ッて逃げて仕舞へば不權衡な文句は蘇生すると見ゑます。

「拉氏の文に似て居たとて別に一新體面を開いて居るからそれでいゝ」とW、S生は言はれます。さう既に一新體面を開れて居るといふ先入の考に腦を縛られて居て言ふなら何も論は有りません。　ならば「みなれ棹」の著者和田のとろみ先生は拉氏よりもゑらい文章家です。あゝ日本にも珍らしく拉氏の上を超ゑる名家が出來ました。

W、S生はまた斯う言はれました「いらつめ批評者は微瑕を指點してのみ幾多の褒揚すべき點を悉皆かへりみない」と言はれて、さア褒出したのはどういふ處かと見ると（一）みなれざをは和文の法則を犯した處が少かッたといふ事（二）毎段の終で文體を變へた事殊に戯曲體謠曲體などは最も美事だといふ事、この二ッより外に有りません。　あゝW、S生も忽卒究まる處の人ですよくいらつめの批評を御覽なさい。　いらつめの批評に「みなれ棹」の謠曲體の文が取るに足らぬ」と評してあります。　いらつめの批評に「著者が和文の教育を受けられた甲斐も有る」とあるのも何の爲ですか。

何にせよ、角にせよ、水馴棹も大學和文學科第一年生和田萬吉氏の御筆としては更に取るに足りません、全體評さなくても宜かッた程の物です。　假に「ユ、オ、ヌ」を破ッたのが惡くないと赦して見ても文が美だとも迚も受取られません。

最後に御斷り申した事が三箇條あります。　WS生はいやにいらつめの美妙齋が貴女之友に載せた三美人三僧侶を暗々裡に惡評して有ります。　その暗々裡に惡評したといふだけとあれ程のW、S生にも似合はしからぬ卑怯な話でしたが、しかしその御批評は至極もッともで、如何にも貴女之友に出て居る美妙齋主人の文には許多の誤謬が有ります。が、内實を言はなくては分解りませんけれど、あれは其草稿には毛頭決してあの樣な誤謬が有るのでは無く、一字の假名さへ違ッては居ません。違ッたのは印刷の際に違ッたのです。是は虚でも何でも無い話しで、もし御疑なら何時でも教育社へ行ッてあの草稿を御覽なさい。　それ故に此段の御批評は折角成立ちさうな御論でしたが、まア御取消なさッて下さい。

次に隨分御批評の間に罵詈となッて居る處が有ります。理窟さへ述べ通るに於ては、何も著者とどうのかうのといふ關係が無い以上は、罵詈に筆を傾けないでもよささうなものです。　しかし、批評の文はそのやうに書くが本式かも知れませんテ。

一寸申譯

演藝矯風會唱歌「かざしの菊」及び「水の江」の評はいらつめ第十二號に出して置きましたが、その後あの評では猶物足らぬやうだからもすこし細評にしろと言越された人も有り、またもすこし細評にした方が宜からうと忠告を下さッた方も厶います。　が、あれだけで大抵御分解りになッても宜ささうな物です。　是で修辭上の誤謬は流石大家の手に成ッたものゆゑ、まづ無いと言ッても宜いほどですからいらつめ記者の前號の批評もあれだけの批評で澤山でしやう。　しかし、強ひてと仰せられるならば御答申しても差支は厶りません。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

叢話

姑と嫁（つゞき）

樂海山人飜案

靜雄「お前にハ遂云ハなかッた私ハ西洋料理より日本風の料理の方がどちらかと云へバ好だ。

梅子ハ怨めし相に「ソンナラソート何故早く仰りませんこんなに久しく一所に居りますに分隔てをなさるとは….。

靜雄は「久しく」といふ語を押へ「久しくと御云だが私と御前と一處になつたハ未ぞ昨日の事だと思ふに….。

此言葉に性急なる梅子もヤヽ落付愛嬌溢れ出てんとする目を夫の方へ向け。

「妾ハ常々何に付け彼に付け良人の事のみ思ッて居りまして良人も妾を憫れと思召すからこんな嬉ひことはないと思ッて居りますが唯良人は兎角母さんのなさることは何でも御屓贔なさつて妾の言ふとをお聞なさつて下さらないのが妾ハ殘念で御在ます。

靜雄「つまらないとを云ッジャないか屓贔するしないと云ふ譯ではないが母さんは私の生立から傍に居て面倒見て下さるから私の好と不好とを何して知らないで居られよ….。

梅子いーへ夫ばかりではありません良人ハ妾より母さんを….。

靜雄「愚なこと…母さんを….。

梅「ハイ妾ハ何でも良人の可愛がる物や良人を可愛がるものハ皆嫉ましく思ひます良人の母さんでも良人のお朋友でも良人の犬でも良人が著述に記す婦人でも…妾ハ良人を何處までも愛して居りますから….。

靜雄「其志ハ予の爲に嬉しい。

梅「何時でも何時でも良人の喜ふ御顔を見やうと思つて折角何か作らへると母さんが先へまわつたり又ハ下婢までもソンな物ハ良人のお口に合ぬなどと悪口ばかり今日も今日とて西洋風のカステイラを作へさせて上やうとしましたらも一今日の獻立ハ極つて居ますと….妾ハコンナ悔いことハありません。

靜雄「ほんとか。

と柔に云へバ梅子ハ目に涙を浮べ「ハイ」と下を向く。

靜雄「そんなに泣かずといゝ….母さんとやハり前の樣に中善して暮してくれ母さんだつてお前を憎ひと思ひなさりやしない私ハ總て家内に浪風立ち内の人が互に氣まづくするハ大嫌ひ….それに北起りハ何ぞと云ふに高が臺所のヤレ杯がこれたとか皿が壞れたとか一錢多いとか少いとかこんなつまらないとで爭ひするは愚々しいではないか….もつと大きな所に目をつけて居るかいゝ….女の最上の美德ハ愛嬌であると云ふことを忘れたか。

靜雄の言葉ハ一々理に適へども腹立て居る梅子の耳や心にハ入らぬと見えたり。

（以下次號）

餘興

餘興に關はる御手紙は成美社餘興記者あてに願ひます。さもなければ沒書にします。御手紙の文字は丁寧に御書きください。記者の都合のみならず淑德の一端であります。

新謎〆切八月五日

皆當あれバ十
四十五進呈
一日の猶豫もあし

(一)
けづれバけづるほど大きくあるものはあよ。
出題者　京橋かくや姫

(二)
妾は化身の法を知る故大切よ取扱はゞ誰方よも化けます。が、もし妾の脊を一度抓き破りあば最早決して化けません。
出題者　下谷圖書頭

(三)
長くあれば長くなるだけ輕くあり、短くなればなるだけ重くある者はあよ。
出題者　遠江佐野屋のあるじ

(四)
平生ハ風が少し吹いても震へるほどやさしい者で人の爲めよ重い荷を脊負い至極重寶な重あれど一度怒れバ數万の人口を一呑よもする者を御存ふてや。
出題者　本仰あしびき孃

○第十二號新作謎の答

第十二號新作謎の解草を寄せられましたハ前號の時よ倍して總計百三十八の多きよ上りましたハ餘輿記者が愛讀諸君よ向つで謝する處でムんます兼てお約束の通り皆答の君へは第十三號第十四號二部宛進呈いたします。

第十二號新作謎の答

(一)氷柱。(二)は。(三)もゝそもゝ。(四)や。

皆答者ハ左の如し

東京●石川貞子●曾根篤●外田粲子●市野とし子●那須兼子●食客居士●草野民子●伊藤ふみ子●吉田しげ子●中津よし子●山崎●河瀬千代●高取まき子●塚原田鶴子●朝霞散史●柳ふす子●川口つね●内田つる子●北澤とく●佐藤誠五郎●不定山人●鈴木綱子●芹澤鈴子●神保孫衛門●山口はま●志田眞子●愚案狂史●逆井和四郎●成田たま●河邊硯●木村きく●神谷ゆう●茂木よし●京都●藤井初太郎●西村せき●和泉●寺田しやう●住實●伊賀●松田よね●●伊勢●中西格助●武藤●吉澤猪三郎●●紀伊●佐々木千代子●●近江●吉見なつ●●甲斐●齋藤なか●●岩代●服部保義●信濃●岡田てるの●案陸女史●倉田啓子●岩本かすへ●田龍禮●春日井清義●●相摸●早川もと子●●陸奥●松山とま●●周防●内海ミシカ●●熊本●岩田てる子●倉知香織●讃岐●山地かね子●●加賀●關とみ子◎●筑前●平位豐太郎美濃●倉矢さう●●陸奥●毛内汎子●島田まげ●木村粧●●札幌●野中●●川口つね●含翠●小山まつ●内田つる●柳ふす

右皆答者の中東京麹町野須兼子孃より寄せられました解草ハ左の三十一文字よものせられました處ハ記者もほと〳〵平常のお心掛左社と床しくぞんじます。

冬くれバ賤がの軒端も玉すだれ千筋の氷柱かけならへつゝ。
君よとてもたらし來つる櫻餅おはもじながらめし給へかし。
三千歳の齡を延るからも〳〵。もすも〳〵も同じも〳〵ことそきけ。
丈夫か氣をハり弓の强けれバおもひ射るやの的ハむつさじ。

弊社のおもし樓藝仙が取敢へぞ。

麹町の那須兼子孃へお返し

麹町室のまとりの程よささよさも解け易き軒のつらゝか。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

櫻もちはすぐに賞翫仕り棄むかりながら一すお返し。
○桃李花も實もある答へにはさらにかくへき言の葉もなし。
遂にまだ解かせてけりな厚板の結び目堅やの字なれども。

月報

日本演藝嬌風會發會批評。

いよ〳〵全會は去る八日鹿鳴館に於て開會され、御持待にあつかつた儘社員も一覽しました。嬌風と既に題名を置かれたほどあつて開演の物はいづれも難の無いのを撰ばれました。

第一番は松竹梅（箏、大和万利○箏中の島松聲○三絃、山多喜松調 胡弓、平岡靜千尺八○荒木古童）でいつもながら堪能の御腕前よく見物に水を打つて坐付きを鎮さいました。が、尺八が何處やら些し上づつて居たやうでした。元より弓胡が側にある故いくらか邪魔にもなりましたらうが、去りし、古童氏の平常の御手際が十分にあらはれなかつたのは如何にも殘念でした。

第二番は義貞稻村ヶ崎（放牛舍桃林）で是ぞと耳を側てる處もありませんでした。

第三番は猩々（歌、都三樹、都派中○三絃、都仙ト、都一廣）で巧妙一點の隙もありませんでしたが諺にもいふ一中の古風、ちと古風過ぎて喝采が少なかつたのは語つた人のため、歌つた人のため、實に御氣の毒でした。たゞし、能狂言を見馳れて居る人は强ちに無味の考を以て聞いて居たやうでもありませんでした。

第四番は將棊の殿樣（落語櫻小さん）ですこし塲處に怯ぢた體で、幾度も〳〵重複な文句を重て話されたのは疵でたし。勿論重複はこの人の癖と言つてもいゝ程ですが、去かし此日ほどの事はあまり有りません。殿さまの我儘をおめぞ聽せぞ辨せられたのは感心します。

・第五番は將棊の諫言（桃川如燕）で可なりでしたが後の燕尾ほどには受けられませんでした。

第六番は義經腰越狀（竹本綾瀬大夫 つる澤豐吉）で車輪の御勉强こゝに總身の力を込めて一心に長い間語られたれは一等は見榮（では無い）聞榮が有りました。けれどその長いのが大厨に人の不快を招いたと見えて、「一寢入して起きてもまだ遣つて居」と蔭口を利いて居られた紳士もあり、御新調の象牙の扇子に欠伸を包み込んで居られた令嬢もありました。一體下手が遣つても此腰越狀泉三郎館の段は感動する段です。それを、歌はその道の名人です。それで、小數の貴婦人紳士を除くの外は淚を拭ふた人がありませんで、「ねむいの」何のと仰つて居られました。

第七番は滑稽落語（三遊亭圓遊）で些しも動せぬ體の無かつたは大出來でした。話はやはり新しいものでもありませんでした。が、大厨に受けました。あとで晩餐の時、縫取蝶の扇を持つて居た令嬢が食べながら一人の令嬢に向ひ、「あたしはあの時をかしくつて〳〵淚がこぼれて…おや左樣、あなたも…困りましたわ、目縁の白粉が薄くなつて」。言つて、皿をなでさすりながら傍を偸み見て「白粉が薄くなつたやうな色でせうと。」

第八番は義人錄（伊東燕尾）で難は有ますが、まづ受ました。

第九番は四季三葉草（箏、花柳芳次郎○三番叟、花柳壽輔○下方入）で

兎や角云ふぶけ野暮です。殊に壽輔の意氣込は非常でした。

第十番は税所篤子作の端穂榮（國州の子、貞子ふき〇杵屋れん）はあどけなき處が一興でした。　御父さん、鼻が高ふムいまそ。

第十一番は待設けて居た「水の江」で尾上菊五郎の下方入りた踏舞です。　いつもながら所作の美事さ、面影のうかるに驚いた仕うち十分です。が、どこぶり歌は忘れましたが、釣竿を取つて右の肩へあて、直に慌てゝ左の肩へ當てた處がありました。その擧動が如何にも輕躁で何やら手過ちらしく見えましたが、如何なものでしやう。

第十二番は「かざしの菊」で團十郎の所作です。御自身の振付とは云ひながらあのやうな議論勝の歌をあゝ自由自在に舞ひこなされた巧みさ、「流石々々とばかり」と洒落れたくなります。それで氣を籠めて居られたことか、夜氣も可なり清涼で且單物を着して居られたにも拘はらず、汗をだら〳〵と流して…それほどでしたから見ごたへの有ッたのは至當です。兎に角、所作になれば「かざしの菊」は神聖な舞です。

初會の故か、四角張ッた物のみ多くて肝心の感動するやうな、柔い色物の無ッたのが殘念でした。そして坐敷の體裁のつくり方もあまりよくなく、殊に正面の簾を洩れて燈光が見えて居たのは幾許の優美の點に於てはようムいましたが、ちと實用上邪魔に思はれました。

勝手次第な洋服を着けた貴婦人令嬢が大分ありましたのはちと變でした。そして夏だのに香水の御用意が少なかッたのは躁暴でした。更に紳士の方ではズボンの釦鈕を外になられしたり、何か、不都合千萬な姿の人もありました。その外に靴をよく拭はずに席に就いた人もありました。併しながら上は皇族大臣をはじめ下は在野の學者文章家に至るまで打連れて相樂しんだ處、如何にも優美なことでした。是から毎月小會もありまして、そして通常會員となるのは一年わづかの二圓四十錢の會費で諸事濟むのです。その外云ふべき處望むところも猶有りますが、それは次會の時にゆづります。今日の略評はあらまし右のとほりです。

●産婆　本年第一期の産婆試驗に及第し開業免狀を得たる者は二十一名なり

●東京音樂學校。にては墺ストリヤより音樂教師を聘し次學期より師範部と專修部との二部とし師範部は二年の卒業專修部は四年の卒業なりと云ふ。

●舞踏の薄命。海軍に關係ある人々が是迄組織せられし舞踏會は去月廿九日限り相談の上斷然解散したる由に聞く。

●地方通信

●大阪婦人學習會　同會は去月十六日北出館字樓に會して同會前教師ゲードリッチ夫人の送別と此度同會にて米國より聘したるアル孃の來會を祝するため宴會を開らき會をする者八十餘ありて演説奏樂等ありていとも盛會なりき

●奈良　にては先頃フェノロサ氏の演説に喚起され一の美術學校を起さんと奔走中なりと

●大津婦人協會。茨城縣下大津村にては婦人協會と風俗衛生談話會を設立する計畫あり

●靜岡婦人會　先月師範學校内に會されたり爾後毎土曜日に會する由。貴顯豪商の夫人令孃は殆と入會せり。

●名張女學講談會　伊賀國名張にては重立ちたる婦人數名の發起にて本年四月初めて題名の會を開らき目下六十餘名の會員ありて毎月二回づゝ開會し育兒衛生等婦女必需の事を研究する由

特別寄書

和洋兩服の利害可否を論じ全國の淑女紳士に謀る

醫學士　竹中成憲

潤袖寛袴は我邦中古以來の風俗なるが三十年前港を開きて西洋人と交際を始めて間もなく長州征伐伏見戰爭續きて東北の亂となり其間武裝の摸様を見るに先祖傳來の甲冑に身を固め源平の軍も斯くやと思はしむるあり或はまたズボンマンテルの上に陣羽織を引掛け兩刀を横ふるものありて其風俗の雜駁異形なる嘉永安政に生れし人は目にて見つらん明治の少年も繪様にて知つらん。兎も角も此異形なる風俗は我邦衣服革命の發端となりて其後世は太平となりて朝廷諸制度を定めさせらるゝに當りて洋服をもて正裝に充てられしより洋服は忽ち奉仕する人々の常服となりぬ。されども民間にては依然舊風俗を守りしが劇しき勞動に服する人々は寛衣を脱ぎて洋服を着るもの多く民間にて逸早く洋服を着初めしは工業場の職工なるべし其後次第に洋服流行の世となり四疊半に籠城し臺子の前に茶杓を棹ふの閑人が終日局に對し烏鷺を鬪すの逸士にあらざるよりは商人も洋服小學校生徒も洋服を着るの時節となりけり。されば男子の間に洋服流行するに至りしは全く實用に迫られて起りしものなり。然るに女子洋服の流行は全く異りたる事情に促されたるが如し。蓋し兩三年以前より男女同權女子教育等の議論世に出でゝより是迄深窓の下に潜みて面を人に合はすを羞らひし婦女子も交際社會に顏を出し外國婦人と交際を始むるに至り是迄の長袖廣帶は舞蹈にも便ならず姿態もまたみすぼらしく活潑ならずと一圖に思ひ込み唯交際上の一點より蜂腰を學ぶこととなりぬ申さば交際する對手即ち外國人と同じ身態を擬して異類視せられまいといふ利巧なる考より來りしものなるが何ぞ圖らん近頃米國第一流の貴婦人とも申すべきクリーブランド夫人ガーフォールド夫人等は親切にも書を日本の貴婦人に寄せて優美なる日本の女服を存し輕々しく不健康なる洋服を着るなかれと勸告せられたりと聞く唯米國の貴婦人のみならず居留外國婦人もみな是と同じ意見を抱けりと聞く。されば洋服を着らるゝ貴婦人は洋服の取捨に疑多かるべし一方より考ふれば園會夜會杯に和服を着するは何か心羞かしくさればとて一方より外國人はこれには及ばぬと勸告せるとなれば決斷には不得意なる婦人方は胸裏は

思案の絶間なかるべし。是時に當て取捨を決せんにハ和洋兩服の利害可否を計算比較するに在り。洋服にして利あらハ風俗を換ゆるに於て何の遲疑するとかあらん和服にして利あらハ何を苦んで外國人に摸擬するとをせん。故に男女和洋兩服の利害を綿密に比較するハ最必要のとと信ずるなり頃日聊か學理上實際上より調査を遂げたれハ玆にいらつめの餘白を借りて世の淑女紳士に謀らんとす

醜體を蔽ひ寒暑を凌ぐが爲に衣服を製せしハ未開の昔より然りしならん文物の次第に開くるに随ひて如何ある衣服ハ生活に便利なるやとの考起りて當初の目的の外に衛生上の考衣服の上に及び是と同時に如何なる衣服ハ最着榮あるか又最恰好よきかと商量するに至りて美術上の考衣服の上に及ぶ又價の廉不廉保續の永促如何と考ふるハ何れの國の衣服も皆問じとなり今我國ハ男子も女子も和服の舊態を守るあり洋服の新樣に移るありて一定せず其間に利害入交りて容易く知りがたきものあり。今之を衛生美術價値保存變形の點より逐一に比較し來らハ其利害判然と決するに至らん。

第一衛生上より論ず。衛生とのみにてハ廣きに過ぎて漠然なれバ少くも七項に分ちて論せざるべからず。一、人體天然の形を變ずるや否や。此點に於てハ男子の服ハ和洋ともかゝる患更になし女服に至りてハ和服ハ此患なきも洋服ハコルセウトを以て胸腹を緊紮るが故に肋骨の骨格を換へ内臟の運動を妨ぐ殊に女子の舞踏服に至りてハ其害最甚し。二、寒暖に應し加減し得るや否や。是ハ男女服とも洋服は此加減をすると甚六ケ敷きも和服ハ暑けれハ胸を開き寒けれバ衿を掻合すと甚自由なり舞踏服ハ申迄もなく不自由極りたるものあり。三、風雨を防ぎ得るや否や。此點にてハ男子の洋服に越したるものハなく女子の洋服ハ風の時ハ裾を捲かれ雨の時ハ裾を汚さる男女の和服もまた風雨を防ぐとの難きハいふまでもなし。四、運動に便ありや否や。洋服皆易くして和服皆難し。五、夏時涼しきや否や。六、冬時暖きや否や。和服ハ寛裕として體に緊着せず間に空氣を容るべき餘地多く洋服ハ膚に密接するが故に空氣を容るべき餘地少し夏時涼しきハ外熱を防ぐとを得るが故なり。冬時暖きハ體熱を守るが故あり而して空氣ハ熱の不導物あれば夏ハ外熱を防ぐの用をなし冬ハ體熱を守るの用をなす。故に多くの空氣を貯へ得る和服ハ夏涼しく冬暖なり之に反して多くの空氣を貯へ得ざる洋服ハ和服に比して夏熱く冬ハ寒し。七、感冒を招き易きや否や。洋服

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は寒暖に應して加減すると難く又夏熱く冬寒きが故に和服に比して感冒を招き易し。舞踏服の感冒を招き易きは皆人の知る所なり。

第二美術上より論ず。日本人着服の上より見るときは男子は和装も洋装も美術上優劣あるとなし。女子の服装に至りては我國女子の洋服を着するを見るに前に述るが如く天形を變更するを以て常に多少の呼吸困難を認め精神安靜ならず爲に動作平滑ならず爲に天授の美德を失ふ。四肢は運動を爲し易きに過るを以て勢粗暴の風に流れ「チヤンバ」に陷らしむるの傾あり此の如き性質を備ふる服を着して美なりと誤認するは我國人の元來物の利害得失を論ずるの前に猥りに新奇の異風を好む癖あるに因る「コーセツト」を以て軀幹を小くし綿を以て臀部を大なすの拙なるより寧ろ我國紋附白襟の勝れるを信ず

第三價値上より論ず。一、仕立勞。和服の仕立勞を以て洋服の仕立勞に比すれは其雜作なきとは申迄もなきとなり。二、物質價。同じ身分に就きていはゞ男子の服は和服も洋服も服地の價に於て甚しき差なし。女子の服に至りては洋服地の價貴きと和服地の類にあらず舞踏服に至りては尙更のとなり

第四保續上より論ず。服地の性質よりいへば洋服は和服よりも永く保續するものなり。但し舞踏服は格別保續の惡しきものなり。永く保續し得るものは洗濯の度數少きが故に不潔物の組織に浸透もの多し然るに保續の短きものは洗濯の度數多きか故に不潔を宿すとも少く又屢新にするが故に保續の永きは衛生上よりいはゞ保續の短きものに劣ると萬々なり。

第五變形するを得るや否や。和服にては母の衣は改め裁して阿孃の衣となすを得べく男子の服は改めて女子の服となすを得べく女子の服もまた然り。洋服に至りては變樣すると甚難し。是經濟上蓋し大なる關係を有すものなり。

以上比較し來れる處を一目瞭然ならしめんか爲め再ひ之を表に製して掲ぐれば

和洋兩服ノ利害可否

中等以上の衣服		和男	洋男	和女	洋女	洋舞
人體天然の形を變す		不	不	不	甚	甚
衛生	寒暖に應し加減すると	易	難	易	難	難
	風雨を防ぐと	難	易	難	難	難
	運動	難	易	難	易	易
	夏	涼	熱	涼	熱	涼
	冬	暖	寒	暖	寒	寒
	感冒	難	易	難	易	易
美術（日本人着服ノ上ヨリ見テ）		仝	仝	上?	中?	上
價	仕立方	易	甚難	易	甚難	甚難
	物質價	仝	仝	低	高	高
保存		短	永	短	永	短
變形スルヲ得		易	難	易	難	難
評		○	良	良	○	惡

此表に就きて男子の和洋兩服の利害を比較すれば男子に最必要なる風雨を防ぐ運動に便なるの利は洋服に限るとなれば比較上よりいへば洋服を良しとす女服に就きては洋服にては運動一利あるのみ和服は運動を除くの外皆大利あり。　夫の運動の點に於て洋服に比して不便なるは只比較上の話にして女子が適度なる運動をなすには和服にて十分なり故に女服にては和服に左袒するに遲疑する處なし。　舞踏服に至りては惡きと論外なり。

尙更に和洋服の得意の點のみを擧げて試に比較せば仕事をなすときは男子は洋服を可とし女子は和服を可とす。　遊ぶときは男女とも和服を可とす寢衣もまた和服に限る西洋人も寢衣には多く和服を用ふ。　病人の服は洋服ならば病人にも窮屈惱者看病人にも不便にして是また和服に限るなり男兒は活潑を要するが故洋服を可とし女子は温雅を要するが故に和服を可とす男女とも乳兒は和服に限るべし。　乳兒の洋服は保姆の難澁一方ならぞ。　在來の舞は女子には適度の運動ともなり其姿態婉約にして西洋舞踏と何れか優美なるやを知ぞ此舞裝もまた和服をよしとす今また之を表にて顯すときは

	男用	女用	寢衣	病人	男遊	女遊	舞	男兒	女兒	乳兒
決	洋	和	和	和	和	和	和	洋	和	和

平均勝　和

右の表に據るときは男子の用を辨するとき及び男兒のみには洋服を可とし其他は和服を便とす今もし和服の短所をすて洋服の長所を採り之に美術上の注意を加へ改良を施しなば最良の衣服を得るとならん。

謹て江湖の淑女紳士に告ぐ

衣服の事は國家の風俗衛生經濟に關する大切のとなれば深く其利害を研究せんと欲し茲に聊か考ふる處を述べしといへども觀察する處甚狹く爲に鄙陋の見を免かれざるべし。　故に汎く淑女紳士實驗の説を得て愚見を確めんと欲し前に掲げたる二表を本誌の附錄として一万葉印刷し愚見は朱書を以て記入したればもし御異見あらは其項の朱書を抹殺して側らに高見の記入を請ひ尙は改良の卓見を有せらるゝならば併せていらつめ成美社に宛寄せられたし九月十五日を以て寄草の締切となし然る後統計上より愚見の正謬を判して再ひ報告するの榮を得んと欲す。

通俗衛生學講義錄は竹者講中醫學士多忙の爲校正間に合兼候に付今回に限見合次號には本號之分を併せ掲載仕可候也

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十二號目次

社説。男女交際論。
小説。空行く月(第四回)。
家政。人工の哺餉=小兒を素直にする法=小兒癇(ヒキツケ)の話(醫學士竹中成憲口述)=急病救法。
流行。縮緬の帶=スキヤ=十二歳より十四五歳までの少女の下衣=若き貴婦人の夏衣=扇=婦人洋服直段付。
化粧。手の色を白く滑にする法=日に燒ける手を白くする法。
批評。浮雲(承前)=明治之細君=高崎男爵新作かざしの菊=物集高見氏新作木の江。
文藝美術。和歌數首=第十回金剛會唱歌=唱歌モードムラル。=新曲宮城曲。
學藝。蠅の話。
講義。用器畫稽古法。
寄書。女學評論(承前)
月報。數十件=女學雜誌寄書欄内いらつめの批評の評の批評。
餘興。新題謎四=前號謎の答。
通信問答。數件。
通俗衛生學。醫學士竹中成憲氏述。

廣告

醫學士 菅沼貞吉先生校閲
産婆講師 稻坂三吉先生著述

産婆心得 百六十八頁

此書全篇を六章に分ち預備正規妊娠正規分娩妊娠妊經異常分娩妊經中の異常産婆職務に付簡易明亮に説きたる産婆必讀の良書なり

石川縣金澤 尾張町 **雲根堂**

●**教學論集** 第五十五編 七月五日發行 價郵税共九錢

目次●本ハ一ニ非ルノ説(島地默雷)○明治諸宗綱要(法相宗)(吉谷覺壽)○興産ノ急務第十(干河岸貫一)●教學莚林○先師

格言○作文南針○老人ノ年隱ス事○世諺故事○哲言●●勝友會誌●吾人ハ何ノ爲ニ生活スル乎○荀子ヲ讀ム●雜記○送生田雲溪赴暹羅國序○王充論抄録●時事評論○自治の元素○開帳禁示スベシ○黒田政府の宗教策●雜報○福澤翁佛教に付ての意見○歐米宗教視察の要件○流行の交代○南條博士○免囚保護會と京都愛知の中學校○外數件●●六冊前金郵税共五十錢○十二冊九十錢

發行所 東京芝公園廿六號 **無外房書**

いらつめ賣捌所

東京日本橋區新葭町	長明堂
同神田區淡路町壹丁目	巖々堂
同 同 佐柄木町	東海堂
同 同 雉子町	團々社支店
同 同 今川橋傍	吉岡商店
同日本橋區蠣売町壹丁目	信文堂
同本郷區元富士町	盛春堂
同 同 春木町貳丁目	解明堂
大坂心齋橋備後町	岡島支店
堺熊野町	高山慶雲堂

○いらつめ代價 一冊金八錢 六冊(半年分)金四十五錢 十二冊(壹ヶ年分)金八十錢 府外毎號郵税一錢宛申受○毎月十五日發兌

雜誌代ハ前金ニアラザレバ御送附不申候金子御差送ノ手續ハ郵便小爲替ナラバ拂渡郵便局トアル所ニ本郷郵便局ト御記入ノ事幷ニ受取人氏名トアル所ニ本郷湯島天神町壹丁目五十九番地成美社ト御記入ノ事

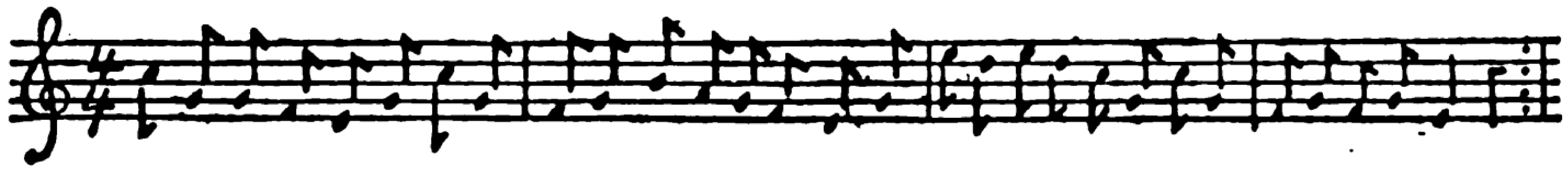
○廣告料一行(五號文字二十七字詰)金八錢○十一行以上金七錢○二十一行以上金六錢 但シ前金ノヿ

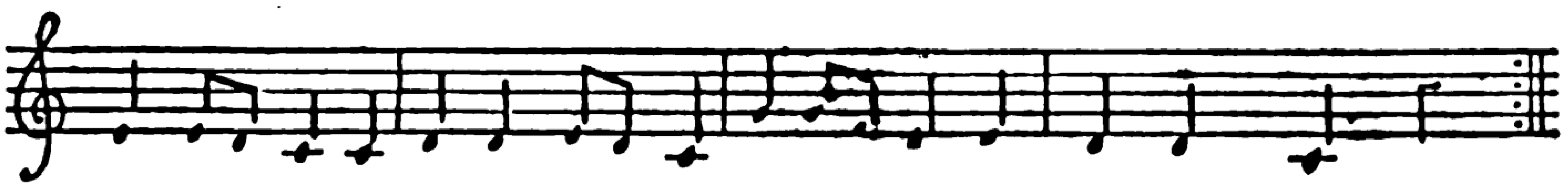
發行人兼印刷人 武田安之助
編輯人 横瀬慶三郎

東京本郷區湯島天神町壹丁目五拾九番地
發行所 成美社

(築地活版製造所印刷部刷行)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY





新作唱歌　美妙齋

あさひに　うつりて　けはひは　ひとしほ。
こよなき　あはれは　つゆに　こそ。
見よ、見よ、くさばに　こがねを　かざる。

つきかげ　やどして　よそひは　ひとしほ。
こよなき　あはれは　つゆに　こそ。
見よ、見よ、かれきに　眞玉を　つゞる。

花にも　なれつゝ　ゆかしさ　ひとしほ。
こよなき　あはれは　つゆに　こそ。
見よ、見よ、いつしか　いろかに　そまる。

蝴蝶を　うらめる　やさしさ　ひとしほ。
こよなき　あはれは　つゆに　こそ。
見よ、見よ、はかせに　ねぢでぞ　うごく。